HP社製　HP200LX　を日本語環境で利用できます

HP 200LX 日本語化キット

ユーザーズマニュアル

WXⅡ+

Ver　2.71

MIFES−mini

Ver　2.31

オカヤ・システムウェア株式会社

1996.03.01　3版発行

アフターサポートについて

●ＭＩＦＥＳ-ｍｉｎｉ及びWXⅡ+はサポートの対応は行っておりません。各メーカに直接のお問合わせは出来ません。また、オカヤ·システムウェア株式会社はＨＰ２００ＬＸ日本語化キットを使用される環境での問合わせに対してはお答えできますが、ＭＩＦＥＳ-ｍｉｎｉまたはWXⅡ+単体もしくは他のアプリケーションソフトと使用される環境でのお問合わせについてのご回答は出来ません予めご了承ください。

注意事項

●WXⅡ+は、エー・アイ・ソフト株式会社殿の商標または登録商標です。
●ＭＩＦＥＳ-ｍｉｎｉは、メガソフト株式会社殿の商標または登録商標です。
●本書の一部、または全部を無断で複写、複製することはできません。
●仕様は製品改良のため予告なく変更することがあります。
●運用に際して生ずる結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

Produced by OKAYA SYSTEMWARE Co.,LTD All rights reserved.

目次

WXⅡ+　Ver2.71

MIFES-mini Ver 2.31

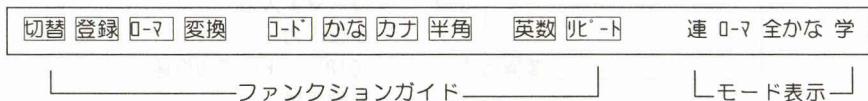
1．基本操作

WXⅡ+の起動と終了、画面表示、入力文字の切り替えなど、基本操作を解説します。WXⅡ+は、すべてのキー機能について、ユーザーが好みのキーを割り当てて使用することができますが、以下では、出荷時の設定に基づいて解説します。ただし他のFEP用のAPIを選択した場合はキー定義やガイド表示がことなりますので、ご注意ください。

1－1．WXⅡ+の起動と画面表示

●WXⅡ+の起動

DOS上または、DOS上で作動するソフトウェアを使用中に ALT＋SPACE を押すとWXⅡ+が起動します。WXⅡ+が起動すると画面の最下行には次のようなガイドが表示されます。ガイドの左側はファンクションキーの機能を表示するもので、ファンクションガイドと呼びます。ガイドの右側は入力や変換の状態を示すもので、モード表示と呼びます。

切替 登録 ﾛｰﾏ 変換 ｺｰﾄﾞ かな カナ 半角 英数 ﾘﾋﾟｰﾄ	連 ﾛｰﾏ 全かな 学
ファンクションガイド	モード表示

再度、ALT＋SPACE を押すとWXⅡ+は終了し、通常の半角入力（キーボードから入力する英数カナ記号の入力）状態に戻ります。

●ガイド表示

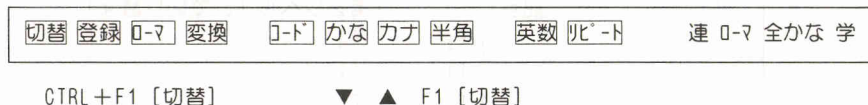
WXⅡ+のガイドは2レベルあり、文字未入力の状態で CTRL＋F1 を押すと、第2レベルのガイドが表示されます。第2レベルのガイド表示中、F1 を押すと、第1レベルガイドに戻ります。

<第1レベルのガイド表示>

切替	登録	ﾛｰﾏ	変換	ｺｰﾄﾞ	かな	カナ	半角	英数	ﾘﾋﾟｰﾄ	連 ﾛｰﾏ 全かな 学

CTRL＋F1〔切替〕　▼　▲　F1〔切替〕

<第2レベルのガイド表示>

切替	句読点	記号	JIS/区	学習	辞書名	OPT1	OPT2	OPT3	OPT4	,.[]･ JIS 学

●モード表示

画面最下行右側のモード表示は、次の意味です。

・第１レベル

・第２レベル

1－2．ファンクションキーの機能

WXⅡ⁺の起動中ファンクションキーの機能は下記のようになっています。第2レベルのファンクションキーは、CTRLを押しながら押しても単独で押しても同じように機能します。また、文字入力中は、ガイド表示は変化しませんが、入力中の文字をひらがなやカタカナに変換する機能があります。

<第1レベル>

CTRL＋F1	[切替]	ガイド表示を第2レベルに切り替える
CTRL＋F2	[登録]	単語登録
CTRL＋F3	[かな]	ローマ字／かな入力を切り替える
CTRL＋F4	[変換]	変換方式を切り替える
CTRL＋F5	[ｺｰﾄﾞ]	コード一覧入力
CTRL＋F6	[かな]	全角ひらがな入力を切り替える
CTRL＋F7	[カナ]	全角カタカナ入力に切り替える
CTRL＋F8	[半角]	半角入力に切り替える
CTRL＋F9	[英数]	全角英数字入力に切り替える
CTRL＋F10	[ﾘﾋﾟｰﾄ]	直前確定文字列を再表示する

<第2レベル>

F1	[切替]	ガイド表示を第1レベルに切り替える
F2	[句読点]	句読点を切り替える
F3	[記号]	記号を切り替える
F4	[ｺｰﾄﾞ]	コード体系を切り替える
F5	[学習]	学習機能をＯＮ／ＯＦＦする
F6	[辞書名]	国語辞書ファイルを変更する
F7～F10	[OPT1～OPT4]	オプションモード

<文字入力中>

F5	[ｺｰﾄﾞ]	部首変換
F6	[かな]	全角ひらがな変換
F7	[カナ]	全角カタカナ変換
F8	[半角]	半角変換
F9	[英数]	全角英数字変換

1－3．モードの切り替え

WXⅡ+使用中、入力される文字の種類やローマ字入力の有無などをファンクションキーによって切り替えます。これらの切り替えは、次にWXⅡ+を起動したときも有効です。ただし、いったんDOSを終了すると保存されません。

1－3－1．ローマ字入力の切り替え

CTRL＋F3 [ﾛｰﾏ]を押すことにより、「ローマ字入力」と「かな入力」に交互に切り替わります。

ローマ字入力・・・・・・・・・・かなをローマ字の綴りで入力します。

かな入力・・・・・・・・・・・・・・・「かな入力」の状態で、かな文字を入力します。

1－3－2．入力モードの切り替え

これから入力する文字は、CTRL＋F6～F9 によって、切り替えます。

CTRL＋F6	［かな］	全角かな入力モードにします。
CTRL＋F7	［カナ］	全角カナ入力モードにします。
CTRL＋F8	［半角］	半角入力モードにします。ひらがな、カタカナ入力のときは、半角カナ入力となり、全角英数入力のときは半角英数入力となります。
CTRL＋F9	［英数］	全角英数入力モードにします。

現在の入力モードは、画面左下の入力モード表示位置に「全かな」「全カナ」「全英数」「半かな」「半英数」と表示されます。

＜モード表示＞	＜入力モード＞	＜入力文字＞
全かな	全角かな入力	あいうえお
全カナ	全角カナ入力	アイウエオ
半カナ	半角カナ入力	ｱｲｳｴｵ
全英数	全角英数入力	ＡＢＣａｂｃ
半英数	半角英数入力	ABCabc

※　出荷時は「全角かな」になっています。

※　WXⅡ+起動直後の入力文字種類は、設定ファイル（CONFIG.SYS）の起動オプションによって設定することができます。

１－３－３．変換方式の切り替え

ＷＸⅡ⁺の変換方式は、次の４種類があり、CTRL＋F4［変換］を押すことによって切り替えます。

・自動変換　　　　：入力した文字が自動的に漢字に変換される方式です。
・連文節変換　　　：変換キーが押されてから変換結果を表示する方式です。
・複合語優先変換　：助詞などの解析を省き、複数の名詞の連続した文章に向いた変換方式です。
・無変換　　　　　：そのときの入力モードに従い、入力した文字がそのまま表示される方式です。ローマ字変換だけは行われます。

ＷＸⅡ⁺起動中、第１ガイドのCTRL+F4を押すことにより、「自動」「連文節」「複合語優先」「無変換」の順で、変換モードを切り替えることができます。

※　出荷時は「連文節変換」になっています。
※　ＷＸⅡ⁺起動直後の句読点モードは、設定ファイル（CONFIG.SYS）の起動オプションによって設定することができます。

１－３－４．句読点と記号の切り替え

ローマ字入力のとき、テンキーでない方の『，』、『．』を押したときに入力される句読点や、『]』、『[』、『／』を押したときの記号を切り替えることができます。CTRL+F1を押し、ガイド表示を第２レベルにしてF2[句読点]で句読点、F3[記号]で記号を切り替えます。現在の句読点は、第２レベルのモード表示に表示されます。

句読点　　　、。　→　、．　→　，。　→　，．
記　号　　　「」・　→　「」／　→　［］・　→　［］／

なお、この設定に関係なく、テンキーの『，』、『．』は，　．が、『／』は／が入力されます。

※　出荷時は　、。「」・になっています。
※　ＷＸⅡ⁺起動直後の句読点モードは、設定ファイル（CONFIG.SYS）の起動オプションによって設定することができます。

１－３－５．コード体系の切り替え

文字入力中の F5［ｺｰﾄﾞ］により、漢字コードによって漢字に変換できます。
（「２－４－２．部首変換」参照）
現在国内で使用されている日本語コードは、３種類あり、これらの日本語コードを切り替えて使用できます。

・ＪＩＳコード　　　　　(2121～987E)
・シフトＪＩＳコード　　(8140～FCFC)
・区点コード　　　　　　(00101～12094)

CTRL＋F1 を押し、ガイド表示を第２レベルにして F4［JIS/区］を押すと、「ＪＩＳ」「シフトＪＩＳ」「区点」の順で切り替わります。現在のコード種類は第２レベルのモード表示に表示されます。

※　出荷時はＪＩＳコードとなっています。
※　ＷＸⅡ⁺起動直後のコード体系は、設定ファイル（CONFIG.SYS）の起動オプションによって設定することができます。

１－３－６．学習機能のＯＮ／ＯＦＦ

ＷＸⅡ⁺では、直前に選択された候補を最初に表示する辞書学習機能があります。学習機能を使用するかどうかは、第２レベルの F5 ［学習］によって切り替えられます。
CTRL＋F1 を押し、ガイド表示を第２レベルにして F5 ［学習］ を押すことにより、「ＯＮ」「ＯＦＦ」の順番で切り替わります。「学習する」のときは、画面右下に「学」の文字が表示されます。

※　出荷時は「学習する」になっています。
※　ＷＸⅡ⁺起動直後の学習モードは、設定ファイル（CONFIG.SYS）の起動オプションによって設定することができます。
※　ＷＸⅡ⁺の学習機能については「３－１．学習機能」を参照してください。

１－４．文字の入力と修正

１－４－１．かな文字と英数字の入力

漢字に変換したい文字は全角ひらがなで入力します。それ以外の文字は CTRL＋F5～F9 によって、切り替えます。

入力モード

全角かな入力	あいうえお
全角カナ入力	アイウエオ
半角カナ入力	ｱｲｳｴｵ
全角英数入力	ＡＢＣａｂｃ
半角英数入力	ABCabc

●ひらがなとカタカナの入力

ひらがなとカタカナの入力は次のようにして入力します。

ローマ字入力のとき：	（全かな）	Ａ → あ
	（全カナ）	Ａ → ア
かな入力のとき：	（全かな）	ア → あ
	（全カナ）	ア → ア
	（半カナ）	ア → ｱ

●英数字の入力

英数字を入力するときは、かな入力、ローマ字入力のときで次のようにして入力します。

ローマ字入力のとき：	ローマ字入力を解除します。	
	（全英数）	Ａ → ａ
	（半英数）	Ａ → a
かな入力のとき：	（全英数）	Ａ → ａ
	（半英数）	Ａ → a

CAPS （SHIFT＋CAPS）をロックしておくと英大文字が、解除すると英小文字が入力されます。

SHIFT を押しながら押すと、英大文字、英小文字が入れ替わります。なお、入力したあとで、ひらがなをカタカナに変換したり、半角カタカナに変換することもできます。

（「２－２．ひらがな、カタカナ、英数字などへの変換」参照）

１－４－２．ALT キーによる英数字の入力

英数字を入力したいとき、かな入力のときには ｶﾅ のロックを解除したり、ローマ字入力のときにローマ字入力を解除するのは面倒です。そこでＷＸⅡ⁺では、ALT を押しながらキーを押すことにより、そのときの入力モードに関係なく、押したキーの英数字を入力することができます。

ローマ字入力のとき：		ローマ字入力のままで
	（全かな）	ALT＋A → a
	（全カナ）	ALT＋A → a
	（半カナ）	ALT＋A → a
	（全英数）	ALT＋A → a
	（半英数）	ALT＋A → a
かな入力のとき：	（全かな）	ALT＋A → a
	（全カナ）	ALT＋A → a
	（半カナ）	ALT＋A → a
	（全英数）	ALT＋A → a
	（半英数）	ALT＋A → a

１－４－３．文字の修正に使用するキー

変換前の文字は、次のキーで修正できます。

◀ ▶	文字カーソルを左右に移動
🡄	文字カーソルの左側１文字を削除
DEL	文字カーソル上の１文字を削除

文字は文字カーソル直前位置に挿入されます。

2. 変換操作

WXⅡ+による漢字変換の操作方法を解説します。WXⅡ+は、すべてのキー機能について、ユーザーが好みのキーを割り当てて使用することができますが、以下では、出荷時の設定に基づいて解説します。

2－1. 漢字変換

2－1－1. 漢字への変換

WXⅡ+では、次の文字を漢字に変換できます。

ローマ時入力のとき：	全角ひらがなモード	わたしは	→	私は
かな入力の時：	全角ひらがなモード	わたしは	→	私は

WXⅡ+による漢字変換の操作は、そのときの変換モード（連文節変換／自動変換）によって異なります。

●連文節変換の場合

連文節変換では、複数の文節が1回の変換操作で変換されます。なお、変換例はあくまでサンプルですので、必ず例のように変換されるとは限りません。

<連文節変換の例>

(1) 読み入力

未変換文字　文字カーソル

↓　↓

このたびへいしゃでは■

末尾に文字カーソルが表示されます。

↓

このたびへいしゃではかっきてきなしんせいひんをかいはつしました。■

(2) SPACE（変換）

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

↑　↑

文節カーソル（反転表示）　決定文節

SPACE を押すと漢字に変換されます。

文節カーソルが先頭文節に位置します。

※1回の変換操作で変換できる文字数は100文字までです。この文字数は、起動時のオプションスイッチにより、100以内の任意の文字数に設定することもできます。

●自動変換の場合

自動変換では、数文節入力すると先頭の文節から自動的に漢字に変換され、「、」「。」など、下記の全変換文字を入力するか、SPACE を押すと、末尾までが変換されます。

全変換文字

を、。，．：；？！’” （） ［］ ｛｝ 「」

全文字が変換された直後は、各文節の同音異義語や文節の調整などができる状態です。

＜自動変換の例＞

(1)　読み入力（句読点以外の部分）

未変換文字　文字カーソル
↓　↓

このたびへいしゃでは■

仮文節　↓
↓

この度へいしゃではかっきてきな■

数文節入力すると先頭の文節が仮の文節として漢字に変換されます。

文節カーソル
↓

この度弊社ではかっきてきなしん■

さらに入力していくと先頭文節が確定し、文節カーソルが表示されます。

↓　文節カーソル（反転表示）
↓

この度弊社では画期的な▶新製品をかいはつしました。■

↑
決定文節

入力を続けると次々に文節が決定され、文節カーソルは決定文節のうちの最後の文節に移動していきます。

(2)「。」を入力

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。■

「。」を入力すると最後の文節まで漢字に変換されます。

文節カーソルは最後の文節に位置します。

※環境設定ファイル（CONFIG.SYS）の起動オプションにより、自動変換において先頭文節から自動的に確定していく「自動確定」を設定することもできます。

●文節カーソルと対象文節について

複数の文節が変換されたとき、文節の区切りが決定された部分を「決定文節」といい、画面では下線がついて表示されます。決定文節のうち、反転して表示された部分を「文節カーソル」といい、他の漢字候補の選択や文節長変更など、変換処理の対象となります。文節カーソルの位置している文節を「対象文節」と呼びます。連文節変換では変換してから先頭の文節から次候補を考えることになるため、変換後、文節カーソルは先頭に位置します。

<連文節変換のとき>

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

↑　　　　　　　　　↑
文節カーソル（反転）　決定文節

自動変換では文節が決定されたときに次候補を選択しやすいように、入力中は決定文節の最後の文節に文節カーソルが位置し、全文字変換後も最後に位置します。

<自動変換のとき>

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

↑　　　　　　　　　↑
決定文節　　　　　　文節カーソル（反転）

文節カーソルがひょじされているとき、次のキーが有効です。

キー	機能
◀、▶	：文節カーソル（反転の部分）を左右に移動
SPACE	：対象文節の次候補を表示
⬅	：対象文節の前候補を表示
SHIFT＋◀	：対象文節の末尾を１文字縮める
SHIFT＋▶	：対象文節の末尾を１文字伸ばす
ESC	：対象文節をかなに戻す
ENTER	：前確定
SHIFT＋▼	：先頭文節確定（先頭の１文節を確定）
CTRL＋▼	：対象確定（対象文節までを確定）

連文節変換では、 SPACE で強制的に変換した場合、次の文字を入力すると前文節が確定されます。

2－1－2．他候補の選択

入力した読みの漢字が望み通り変換されなかった場合、◀ 、▶ で文節カーソルをその文節に合わせて SPACE を押します。同じ読みで他の漢字による文節（次候補）が表示されます。 ⬅ を押すと１つ前の候補に戻ります。

<次候補の例>

(1) 変換直後

文節カーソル＝対象文節（反転）

↓

あの人は戦場を歩いた。

(2) ▶で文節カーソルを移動します。

文節カーソルが移動

↓

あの人は戦場を歩いた。

(3) SPACE　（▲ または BS で前候補表示）

あの人は船上を歩いた。

表示された候補が望みの漢字であれば▶を押します。

(4) ▶で候補漢字が選択され、文節カーソルが次の文節に移動します。

あの人は船上を歩いた。

●候補一覧による他候補の選択

表示された文節がまだ望みのものではない場合、さらに SPACE を押すと、画面下部に候補漢字の一覧が表示されます。

<候補一覧からの選択例>

(1) 文節カーソルを対象文節に移動

文節カーソル

↓

あの人は戦場を歩いた。

(2) SPACE （1回目）

あの人は船上を歩いた。

(3) SPACE （2回目）

次のように、画面下部に候補一覧が最大10個まで表示されます。

```
あの人は洗浄を歩いた。
          選択されている候補（反転）
                  ↓
1:戦場  2:船上  3:洗浄  4:線上  5:線状  6:扇情  7:線条  8:煽情   3/33
                          ↑                                    ↑
                       候補一覧                          候補数と選択中
                                                         の候補の番号
```

候補一覧では、次のキーを使って表示された候補を選択します。

▶	：反転カーソルを右に移動
変換	：反転カーソルを右に移動
SPACE	：反転カーソルを右に移動
◀	：反転カーソルを左に移動
⬅	：反転カーソルを左に移動
▼	：反転漢字を選択し、文節カーソルは次文節へ
1 ～ 8	：対応する番号の漢字を選択し、文節カーソルは次文節へ

画面右下には前候補の数と、現在選択されている候補の番号が表示されます。全候補数が10を超えている場合、次のキーで次の候補群（最大10個）または前候補群に切り替えます。

SHIFT＋▼	：次候補群を表示
SHIFT＋▲	：前候補群を表示

(4)　▶ または 変換 を押して「線上」を選びます。

```
あの人は線上を歩いた。
1:戦場  2:船上  3:洗浄  4:線上  5:線状  6:扇情  7:線条  8:煽情  3/33
```

(5)　▼ を押すと候補一覧が消え、次の文節に文節カーソルが移動します。
漢字が選択され、文節カーソルは次文節へ移動。

```
あの人は線上を歩いた。
切替 登録 ﾛｰﾏ 変換  ｺｰﾄﾞ かな カナ 半角  英数 ﾘﾋﾟｰﾄ    連 ﾛｰﾏ 全かな 学
```

また、候補一覧の番号に対応する数字キーを押すと、反転カーソルを移動し、 ▼ を押したことと同じになります。

※候補一覧は、起動時のオプションスイッチにより、表示しないように設定できます。
※また、候補一覧が表示されるまでの次候補キー（ SPACE ）を押す回数は、起動時のオプションスイッチにより、１回から255回の範囲で任意に設定できます。

●自動変換時の候補選択について

自動変換中、先頭から次々に漢字に変換されていく途中で、文節カーソルは常に漢字に変換された最後の文節に位置します。SPACEを押すと文節カーソル位置の次候補が表示され、候補漢字を選択後、文節カーソルの位置は変化しません。そのため、文字入力が文節の途中までであっても文節カーソル位置の候補を選択後、文字入力を続行できます。

＜例＞下記の状態のときに、SPACE を押した場合の例を示します。

文節カーソル（反転）　　　　　　文字カーソル

今日はよい天気なのでひさしぶりにさんぽでもし■

決定文節　仮文節

・SPACE を押した場合

SPACE を押すと、次候補が表示されますので、SPACE を押して「良い」を選択します。

今日は良いてんきなのでひさしぶりにさんぽでもし■

文字入力を続けます。

今日は良い天気なので久しぶりにさんぽでもしようか■

「、」を入力すると、文節カーソル以降の文節も正しく解釈され、全文節が変換されます。

今日は良い天気なので久しぶりに散歩でもしようか、■

2－1－3．確定

●全確定

変換された文字は、ENTER を押すと、全文字が確定されます。（全確定）。

また、連文節変換のときは次の文字を入力しても、全確定します。

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

文節カーソル（反転）　　決定文節

ENTER （または次の文字の入力）

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

このほか、先頭の１文節だけを確定する機能（先頭文節確定）や、文節カーソルまでを確定する機能（対象文節確定）もあります。

●対象文節確定

対象文節確定は、先頭文節から文節カーソルのある文節（対象文節）まで（対象文節を含む）を確定するもので、出荷時にはキーに割り当てられていません。

＜対象文節確定の例＞

(1) 確定前

決定文節　決定文節

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

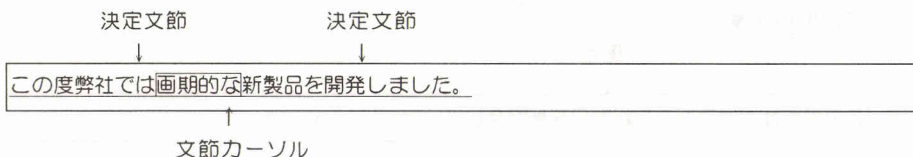
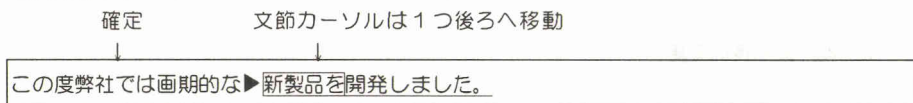
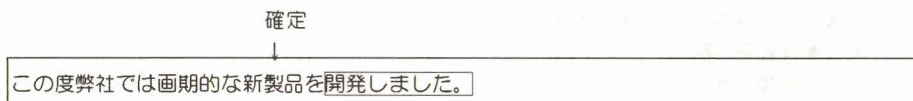
文節カーソル

(2) CTRL＋▼

確定　文節カーソルは１つ後ろへ移動

この度弊社では画期的な▶新製品を開発しました。

(3) CTRL＋▼

確定

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

●先頭文節確定

先頭文節確定は、文節カーソルの位置に関係なく、未確定の決定文節のうち、先頭の文節だけを確定するものです。出荷時には SHIFT＋▼ に割り当てられています。

＜先頭文節確定の例＞

(1) 確定前

決定文節　文節カーソル　決定文節

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

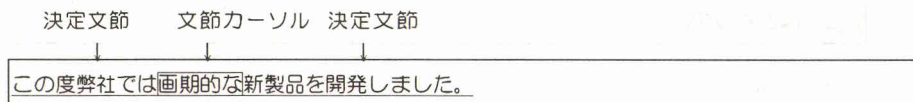
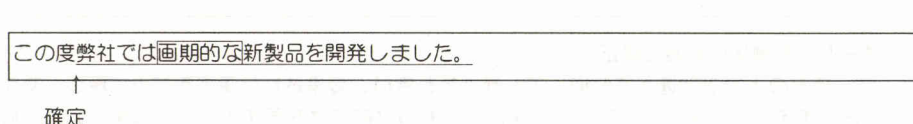
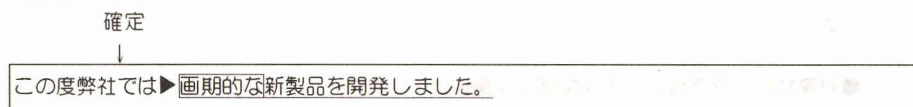
(2) SHIFT＋▼

この度弊社では画期的な新製品を開発しました。

確定

先頭の文節が確定します。文節カーソルは移動しません。

(3) SHIFT＋▼

確定

この度弊社では▶画期的な新製品を開発しました。

さらに次の文節が確定します。

(4) SHIFT＋▼

確定　文節カーソルは１つ後ろへ移動
↓　↓

この度弊社では画期的な▶新製品を開発しました。

(5) SHIFT＋▼

確定
↓

この度弊社では画期的な新製品を▶開発しました。

以下、対象文節と同じ動作をし、１つずつ文節が確定しています。

2－1－4．文節長の変更

文節カーソルの位置する文節（対象文節）は、SHIFT＋◀、SHIFT＋▶によって、１文字ずつ文節の長さを伸ばしたり縮めたりすることができます。伸縮後、SPACE キーを押すと、対象文節が漢字に変換されます。

＜文節長変更の例＞

(1) 変換直後

対象文節（反転）
↓

ここで履物を脱ぐ。

(2) SHIFT＋▶

ひらがなに戻る（反転）
↓

ここではきものを脱ぐ。

(3) SPACE

ここでは着物を脱ぐ。

2－1－5．変換後の読みの修正

読みの入力を間違えて変換してしまったときは、変換された漢字を読みに戻し、文字を修正します。変換後の漢字を戻す方法は、対象の文節だけを戻す「文節かな戻し」と、確定前の漢字をすべて戻す「全文戻し」があります。読みに戻ったあとの文字は、◀、▶で文字カーソルを移動したり、←、DELで文字を削除することができ、SPACEによって再び漢字に変換できます。

●対象文節の文字修正方法（文節文字戻し）

複数の文節が漢字に変換されているとき、ESCを押すと、文節カーソル位置の文節だけが変換前の文字に戻ります。これを「文節文字戻し」といいます。

次の例は「てんきがよいらしい」を間違えて「よいだしい」と入れてしまったために文節の区切りがおかしくなった例です。

明日は天気がよいだしい。

「よいだ」を「よいら」に直します。
▶を押して文節カーソルを「天気がよいだ」に合わせます。

明日は天気がよいだしい。

［ESC］を押します。文節文字戻しが実行され、対象文節がひらがなに戻ります。次の文節の先頭文字に文節内修正カーソルが表示されます。

文節内修正カーソル（反転）
↓
明日は天気がよいだしい。
↑
文節内修正文字

この状態で、読み入力字（変換前の文字）の修正と同じで、次のキーで文字が修正します。

［◀］［▶］　文字カーソルを左右に移動
［⬅］　文字カーソルの左側１文字を削除
［DEL］　文字カーソル上の１文字を削除

文字は文字カーソルの直前に挿入されます。
この例では、［⬅］を押して「だ」を削除し、正しい文字「ら」を挿入します。

明日は天気がよいらしい。

［SPACE］を押して再変換します。

明日は天気がよいらしい。

●全文字をひらがなに戻しての修正方法（全文字戻し）

文節文字戻し」によって文節カーソル位置の漢字がかなに戻っているときに、ESC を押すと、確定前の全文字が変換前の文字に戻ります。これを「全文字戻し」といいます。
同じ例で説明します。

明日は天気がよいだしい。

ESC を押します。文節カーソルがあった「明日は」がかなに戻ります。

文節内修正カーソル（反転）
↓
あすは天気がよいだしい。
↑
文節内修正文字

もう１回 ESC を押します。

全文戻しが実行され、確定前の全文字がひらがなに戻って表示されます。

あすはてんきがよいだしい。■

↑ 未変換文字　　↑ 文字カーソル

末尾に文字カーソルが表示されますので、◀ で修正箇所に移動し、DEL や 🡄 によって文字を修正します。

あすはてんきがよいらしい。

修正後、SPACE を押すと全文字が漢字に変換されます。

明日は天気がよいらしい。

2−1−6．変換中の状態の推移

以上でWXⅡ⁺による文字入力、変換のあらましがおわかりいただけたと思います。ここで、文字入力から変換、確定までの状態の変化をまとめて図に示します。

1) 未入力状態

文字入力

↓

2) 変換前、文字入力中（「文節カーソルなし状態」）

きょうはてんきが■

↑　↑

<連文節変換>　文字ｶｰｿﾙ（［◀］［▶］で移動）

<連文節変換>　<自動変換>

3) 変換中（「文節カーソルあり状態」）

今日は天気が[よい]■

↑　↑　↑

決定文節　文節ｶｰｿﾙ　文字ｶｰｿﾙ（［◀］［▶］で移動）

4) 全変換後または文節ｶｰｿﾙ移動後（「文字カーソルなし状態」）

[今日は]天気がよい。

↑　↑

文節ｶｰｿﾙ（［◀］［▶］で移動）　決定文節

（反転）　↓

［ENTER］

［SPACE］次候補表示

↓

［SPACE］　→　5) 候補一覧状態

←（候補選択）［▼］

←（候補選択）［1］〜［8］　| 1:今日　2:強　3:共　…… |　［ENTER］→　確定へ

［SHIFT］+［▶］

［SHIFT］+［◀］　→　6) 文節長変更状態

←（文節戻し）［ESC］　| [きょうはて]んきがよい。 |　［ENTER］→　確定へ

←（再変換）　［SPACE］

対象文節（反転）

ESC　→　7) 文節修正状態

←（再変換）　［SPACE］　| きょうは[て]んきがよい。 |　［ESC］→　2）へ

［ESC］→確定へ

↑

文節内修正カーソル（◀ ▶で移動）

（反転）

↓

確定（未入力状態）

今日は天気がよい。

2－2. ひらがな、カタカナ、英数字などへの変換

2－2－1. ひらがな変換／カタカナ変換／半角変換英数変換

文字の入力または変換中荷は、 F6 ～ F9 で、入力中の文字をカタカナ似する、などの操作我できます。

F6 ［かな］･･･全角ひらがな変換
　変換前または対象文節の文字を全角ひらがなに変換します。
F7 ［カナ］･･･全角カタカナ変換
　変換前または対象文節の文字を全角カタカナに変換します。
F8 ［半角］･･･半角変換
　変換前または対象文節の文字を半角に変換します。全角ひらがな、全角カタカナは半角カタカナに、全角英数字は半角英数字似なります。
F9［英数］･･･全角英数変換
　変換前または対象文節の文字を英数字に変換します（ローマ字入力のとき）。

一度漢字にされた文字もひらがなやカタカナに変換することができます。未変換の文字だけの場合、全文字がこうした変換の対象となります。すでに複数の文節が漢字に変換されているときは、文節カーソル位置の文節が変換されます。他の文節を変換したい場合は、［◀］、［▶］によって文節カーソルをその文節に合わせたうえで実行します。

<例>

ですくとっぷ・ぱぶりっしんぐ■

F7［カナ］　↓

デスクトップ・パブリッシング

<例>　文節カーソル

サイドワインだー

［▶］　↓

サイドワインだー

F7［カナ］　↓

サイドワインダー

2－3. リピートと確定アンドゥ、ふりがな

日本語入力中、確定した文字をもう一度使って別な漢字に変換したり、あるいはひらがなに戻して使いたい、ということがあります。また、一度確定したあとで、確定前の状態に戻して変換し直したい、ということがあります。WXⅡ+はこうした機能も備えています。

CTRL＋F10	･･･リピート	：確定した文字を確定前の状態で再表示します。
CTRL＋←	･･･確定アンドゥ	：確定した文字を確定前の状態に戻します。

●リピート

文字を確定後、 CTRL＋F10 ［ﾘﾋﾟｰﾄ］ を押すと、確定前の文字が再表示されます。再表示された文字を他の漢字に変換したり、ひらがな、カタカナに変換することができます。ENTERを押すなどして改行しても有効です。名簿などで漢字と読みを入力したい場合などに便利です。

山口産業

ENTER（確定）　↓

山口産業■

ENTER（確定）　↓

山口産業
■

CTRL＋F10 ［ﾘﾋﾟｰﾄ］ ↓

山口産業
山口産業

F6（全角ひらがな変換）　↓

山口産業
やまぐち産業

●確定アンドゥ

リピートは確定した文字はそのままにして新たに文字を再表示しますが、確定アンドゥは、直前の確定を無効とし、確定前に戻す機能です。間違って確定して再変換したい、というときに便利です。ただし、改行など、他のキーを押すと無効となります。

山口産業

ENTER（確定）　↓

山口産業■

CTRL＋← 〔ｱﾝﾄﾞｩ〕　↓

山口産業

2－4．その他の漢字

通常の変換のほか、次の変換方法があります。

・漢数詞変換　　(SPACE)
・部首変換　　　(F5)
・コード一覧入力　(CTRL+F5)

2－4－1．漢数詞変換

WXⅡ⁺では、数字を入力して変換すると、次の候補が表示されます。

1)数字	１２３４５６７
2)漢字位つき数字	百２十３万４千５百６十７
3)３桁区切り数字	１，２３４，５６７
4)位つき漢数字	百二十三万四千五百六十七
5)漢数字	一二三四五六七八
6)位つき旧漢数字	壱百弐拾参万四千五百六拾七
7)旧漢数字	壱弐参四伍六七
8)半角数字	1234567
9)３桁区切り半角数字	1,234,567

2－4－2．部首変換

部首変換は次の機能を持ちます。

・１文字の読みによる第１水準漢字の入力
・部首名による第２水準漢字の入力
・コードによる漢字入力

●１文字の読みによる第１水準漢字の入力

変換前の文字が１文字のとき、 F5 を押すと、第１水準漢字に変換できます。

```
A>あ■
切替 登録 ﾛｰﾏ 変換  ｺｰﾄﾞ かな ｶﾅ 半角  英数 ﾘﾋﾟｰﾄ     連 ﾛｰﾏ 全かな 学
```

F5　　　↓

```
A>亜
1:亜  2:唖  3:娃  4:阿  5:哀  6:愛  7:挨  8:姶  9:逢  0:葵      [3021] JIS
```

候補漢字を選択する操作は候補一覧から候補を選択するときと同じです。

◀ ▶	：選択用カーソルを左右に移動
SHIFT＋▲ ▼	：前群、次群の切り替え
ENTER	：反転されている漢字を選択し、終了
１～０	：指定番号の漢字を選択し、終了

読みと表示される先頭漢字については、「付録 記号・部首読み一覧」を参照してください。

●部首名による第２水準漢字の変換

部首名の読みを入力して F5 を押すと、対応する部首の第２水準漢字が表示されます。部首名の読みについては、「付録 記号・部首読み一覧」を参照してください。

たとえば「いとへん」の漢字なら「いと」または「いとへん」と入力して F5 を押すと、画面下にはいとへんのついた第２水準の漢字が表示されます。

```
A>いと■
切替 登録 ﾛｰﾏ 変換  ｺｰﾄﾞ かな カナ 半角  英数 ﾘﾋﾟｰﾄ    連 ﾛｰﾏ 全かな 学
```

F5　　↓

```
A>いと
1:糺 2:紆 3:紂 4:紜 5:紕 6:紊 7:絅 8:紘 9:紮 0:紲     [647D] JIS
```

以降に操作は、候補一覧から候補を選択するときと同じです。 SHIFT+▲ ▼、◀ ▶で選択し、ENTER キーを押すとカーソル位置に入力されます。１文字選択したあとは、部首変換は終了します。

●コードによる漢字入力

文字未入力の状態で、４桁の漢字コードを入力してから F5 〔ｺｰﾄﾞ〕を押すと、そのコードの漢字を先頭とするコード一覧が表示されます。

```
A>２１５６■
切替 登録 ﾛｰﾏ 変換  ｺｰﾄﾞ かな カナ 半角  英数 ﾘﾋﾟｰﾄ    連 ﾛｰﾏ 全かな 学
```

F5 ↓

```
A>「
1:「 2:」 3:『 4:』 5:【 6:】 7:＋ 8:－ 9:± 0:×     [2156] JIS
```

以降に操作は、候補一覧から候補を選択するときと同じです。 SHIFT+▲ ▼、◀ ▶で選択し、ENTER キーを押すとカーソル位置に入力されます。１文字選択したあとは、部首変換は終了します。

漢字コードは、第２ガイドの F4 ［JIS/区］によって、ＪＩＳ、シフトＪＩＳ、区点のどれか切り替えることができます。現在のコード体系は、コード入力時の画面下部の右端に表示されます。

２－４－３．コード一覧入力

文字未入力の状態で、CTRL+F5〔ｺｰﾄﾞ〕を押すと、画面最下行に漢字一覧が表示されます。

1:　2:、　3:。　4:，　5:．　6:・　7::　8:;　9:？　0:！　　[2121] JIS

次のキーで漢字の選択やコードの訂正をします。

◀ ▶	:選択用カーソルを左右に移動
▲ ▼	:前群、次群の切り替え
ENTER	:反転されている漢字を選択する
ESC	:コード一覧入力を終了する
0〜9	:コード入力
A(a)〜F(f)	:コード入力

ENTER によって漢字を選択したあとも、コード一覧は表示されたままとなり、続けて他の漢字を選択できます。

ESC を押すとコード一覧が終了し、元の画面に戻ります。

０〜９、Ａ〜Ｆ を押すと [ ] の中に入力した文字が表示され、４桁まで入力しそのコードに該当する漢字があると、その漢字コードの漢字を先頭とする候補群に切り替わります。区点コードの場合は先頭に「0」もしくは「1」をつけて５桁まで入力すると、漢字一覧が表示されます。

０、１で始まる数字・・・・・・・・・・・・・・・・・・区点コード
２〜７で始まる英数字・・・・・・・・・・・・・・・・ＪＩＳコード
８，９，Ｅ，Ｆで始まる英数字・・・・・・・シフトＪＩＳコード

３．辞書の学習と単語登録

３－１．学習機能

ＷＸⅡ⁺の学習には次の４種類があります。

・自立語学習
・文節学習
・接頭語学習
・文字変換学習

学習機能を「ＯＮ」にしてＷＸⅡ⁺を使用すると、上記の学習機能が働きます。これらの学習結果は辞書に書き込まれ、次回ＷＸⅡ⁺を起動したときも有効となります。

●自立語学習

独立した単語について、前回使用したものが先頭になるように、辞書内の同一見出しの単語の順番を変える機能です。

```
1:洗浄  2:線上  3:船上  4:戦場  5:扇情  6:線条  7:線状  8:煽情    4/33
```

「せんじょう」という漢字変換をしたときに候補の「戦場」で確定した場合、次回は「戦場」が最初に表示されます。候補一覧は次のようになります。

```
1:戦場  2:洗浄  3:線上  4:船上  5:扇情  6:線条  7:線状  8:煽情    1/33
```

●文節学習

変換中に変更した文節の区切りを学習する機能です。

「ここではきものをぬぐ」を「ここで履物を脱ぐ」でなく「ここでは着物を脱ぐ」と確定したあとは、「ここで」ではなく「ここでは」の文節が優先されます。

●接頭語学習

丁寧語の接頭語と、地名の接頭語について、その順番を学習します。

「ごさんか」を「ご参加」でなく「御参加」で確定したあとは「ごりよう」を変換すると「御利用」が最初の候補として表示されます。

自立語とは別に学習されるため、「お」の読みで「御」が学習されても同じ「お」の読みの自立語「尾」「緒」などの学習結果には影響しません。

●文字変換学習

現代の日本語にはカタカナ語が多くあります。

また、漢字で表わせる語でもひらがなのまま入力したいことがあります。

ＷＸⅡ⁺では辞書にない単語を、ひらがな変換やカタカナ変換の結果を確定すると、その語はひらがなまたはカタカナとして学習されます。

たとえば「とふらー」と入力して変換すると、単語として登録されていないため、例えば「塗布らー」などと変換されます。これを文節長を変更し「とふらー／は」にしてカタカナ変換して確定すると、次からは「トフラーは」「トフラーの」と変換されます。

<例>

```
塗布等ー
```

SHIFT+▶ で文節長を変更

```
とふらー
```

F7 でカタカナ変換

```
トフラー
```

３−２．単語登録

注：単語登録方法は、ＤＯＳとシステムマネージャーでは異なります。システムマネージャー上で単語登録をする場合は、日本語化キットユーザーズマニュアルのシステムマネージャーで日本語を入力するの項を参照して下さい。

辞書にない単語はユーザ単語として登録すると、変換の効率があがります。また、カタカナ語やひらがな語をユーザ単語として簡単に登録する文字変換登録、それらを自動的に登録する不定語登録の機能もあります。

３−２−１．ユーザー単語の登録と削除

CTRL＋F2〔登録〕を押すと画面最下行が次のようになり、辞書の単語登録や削除ができます。

```
始点を指定してください                      単語登録
```

登録の対象となる文字と読みとして使用できる文字は次の通りです。

単語：30文字までの全角または半角文字

読み：30文字までの全角のひらがなまたは全角英数字（ＩＡＳ組込み時は25字まで）

品詞を指定して登録します。１つの単語に一度に２つ以上の品詞を指定することはできません。

●単語登録の手順

単語登録は、次の手順で行ないます。

①·あらかじめ登録したい単語を入力変換し、確定しておきます。

```
A>ニュートリノ■
切替 登録 ﾛｰﾏ 変換  ｺｰﾄﾞ かな カナ 半角  英数 ﾘﾋﾟｰﾄ    連 ﾛｰﾏ 全かな 学
```

②　文字未入力の状態で CTRL＋F2 ［登録］を押します。

```
A>ニュートリノ■
始点を指定してください                      単語登録
```

③　▲▼◀▶キーでカーソルを登録したい文字列の先頭に合わせ、ENTER を押します。

```
A>ニュートリノ■
終点を指定してください                      単語登録
```

④　◀▶キーでカーソルを登録したい文字列の末尾に合わせ、ENTER を押します。

```
A>ニュートリノ■
読みを入力してください                         単語登録
```

⑤ 単語の読みを入力します。

```
A>ニュートリノ■
にゅーとりの■                            固 ロ-マ 全かな 学
```

⑥ 読みを入力し確定したあと、ENTER を押すと次のように表示されます。

```
A>ニュートリノ■
名詞    で登録します Y/N Delete=削除              単語登録
```

ここで、名詞として登録するなら、Y または ENTER を押します。
N または ESC を押すと、次のように表示され、登録する単語の品詞を選択できます。

```
A>ニュートリノ■
1:名詞 2:名詞非接尾 3:さ変名詞 4:さ変名詞非接尾 5:ざ変名詞   1/49
```

・◀ ▶ キーで反転部分を移動し、ENTER キーを押す。
・該当する品詞の番号の数字キーを押す。

登録可能な品詞は全部で49種類あります。詳細は「付録 登録品詞について」を参照してください。

品詞を選択し、ENTER を押すと、再度上記の
「×××××で登録します Y/N Delete=削除」の画面になります。

⑦ 表示された品詞で登録するなら、Y または ENTER を押します。
単語が登録され、CTRL+F2〔登録〕を押す前の画面に戻ります。

```
A>ニュートリノ■
切替 登録 ロ-マ 変換  コ-ド かな カナ 半角  英数 リピ-ト    連 ロ-マ 全かな 学
```

●単語削除

① 削除したい文字が表示されている状態で CTRL+F2〔登録〕を押します。
② 削除したい単語の始点と終点を指定します。
③ 単語の読みを入力します。

```
A>ニュートリノ■
名詞    で登録します Y/N Delete=削除              単語登録
```

④ DEL を押します。
指定された文字列の漢字で指定された読みの単語が削除されます。

●不定語登録（カタカナ語など自動登録）

WXⅡ⁺には、出荷時には使用しないように設定してある「不定語登録」という機能もあります。これは、入力された単語が辞書になかった場合、すべてカタカナまたはひらがなの候補か、助詞を除いた部分をカタカナにした候補を表示します。これを不定語といいます。この機能は、文節長を変更した場合に働きます。

塗布等ーは

SHIFT + ▶ で文節長を変更

とふらーは

SPACE で変換

とふらーは 1:とふらーは　2:トフラーハ　3:トフラー　　3/3

この機能を使うとカタカナ語の入力が容易に行なえますが、変換結果は、学習されません。しかし不定語登録機能を選択すると、不定語として入力した語がユーザ単語として登録され、次回から独立した単語として変換できるようになります。品詞は、文字変換登録同様、慣用句となります。ただし、不定語登録を「する」にして使用すると、知らず知らずのうちに単語が増えますので注意してください。

不定語登録機能を使用する場合は、設定ファイル（CONFIG.SYS）または環境設定ファイル（WX2SYS.INI）に「/F」オプションを指定します。

3－3．辞書ファイルの変更

WXⅡ⁺起動中、使用する国語辞書ファイルのパス名（ドライブ、ディレクトリを含むファイル名）を変更することができます。

①　文字未入力（全文字確定）の状態で、CTRL + F1 を押し、ガイド表示を第2レベルにして F6 ［辞書］を押します。画面最下行に次のように、現在の辞書のパス名が表示されます。

C:¥WX2S.DIC■　　　　　　　　　　　辞書ファイル変更
BS を押すと、表示されたパス名の末尾から1文字ずつ削除されます。
変更したい辞書ファイルのパス名を入力し、 ENTER を押します。
パス名を変更しないで ENTER を押すと、辞書ファイルは変更されません。

②　辞書ファイルが変更され、元の画面に戻ります。

４．辞書検査／修理

【機能】

ＷＸⅡ⁺の国語辞書を検査し、エラーがあった場合は修理を行ないます。また、自動拡張されたブロック数をチェックし、多い場合は辞書再編成を促します。

※必ず２５行モードで行ってください。

修理を行なうのは、国語辞書に以下の異常があった場合です。

・インデックスが壊れている場合

・辞書ブロック内の単語レコードが壊れている場合

・辞書ブロック内の先頭にある、次のブロックを示す番号が壊れている場合

※辞書IDが壊れている場合は、修理を行ないません。

【書式】

```
WX2DCHK [/DW<WX2辞書名>] [/LE<ｴﾗｰﾛｸﾞﾌｧｲﾙ名>] [/OV] [/1] [/?]
```

/DW<WX2辞書名>　：ＷＸⅡ⁺辞書名を指定します。

/LE<ｴﾗｰﾛｸﾞﾌｧｲﾙ名>：辞書に異常があり修復を行なった場合に、その修復処理の内容を出力するファイル名を指定します。

/OV　：エラーログファイル出力モードを上書きにします。

/1　：実行後、プログラムを自動終了します。

・

/?　：ヘルプ画面を表示します。

実際に辞書検査/修理をおこなう場合は，WX2ディレクトリの中にあるCHKDIC.BATを起動して下さい。

【操作】

①CHKDIC.BAT起動すると、次のような画面が表示されます。

```
＜辞書検査／修理・起動画面＞
  ＷＸ２　辞書検査／修理                      Ver 2.70  DOS/V
                                 [ｽﾍﾟｰｽ:一覧][Enter:実行][Esc:中止]
  辞書ファイル名　[                                  ]
  処理選択　　　●確認メッセージあり ○確認メッセージなし
```

この画面では、次のようなキーを利用し、項目内容を設定します。

▲ ▼ ◀ ▶・・・・・・・・・・・・・・・・カーソルを項目間で移動

ENTER・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・設定を終了し、辞書検査を実行

ESC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ユーティリティの実行を中止し終了

F1［一覧］・・・・・・・・・・・・・・・・・・ファイラーを起動

F2［ヘルプ］・・・・・・・・・・・・・・・・ヘルプを表示

F3［中止］・・・・・・・・・・・・・・・・・・ユーティリティの実行を中止し終了

F10［実行］・・・・・・・・・・・・・・・・・設定を終了し、辞書検査を実行

・辞書ファイル名

検査を行なうWXⅡ⁺国語辞書名を指定します。

・処理選択

「確認メッセージあり」を選択すると、辞書再編成や修理、エラーログ作成、ブロックの破棄などの処理を行なう前に、確認メッセージが表示されます。「確認メッセージなし」を選択した場合は、確認メッセージを表示せずに処理を実行します。

②辞書ファイル名、処理選択の設定が終了したら、 ENTER を押します。以下のメッセージが表示されます。

確認
辞書の検査を開始します。 よろしいですか？ Enter:OK　Esc:CANCEL

③ENTER を押し、辞書の検査を開始します。画面には、辞書の検査状況を示すメッセージが表示されます。

実行中
辞書検査中 65%

④辞書に異常がなく、再編成の必要がある場合は、以下の確認メッセージが表示されます。

※処理選択で、「確認メッセージなし」を選択した場合は、メッセージを表示せずに再編成を行ないます。

確　認
820ブロックのうち自動拡張ブロックが20存在します。 辞書再編成を行なうと変換処理速度が向上します。 辞書再編成を行ないますか？ Enter:OK　Esc:CANCEL

環境設定の自動辞書拡張項目で、「する」を選択している場合、単語登録を繰り返すと自動的に辞書が拡張されますが、そのままでは次第に辞書へのアクセス回数が増え、変換速度が遅くなります。そこで辞書再編成を行なうと、変換速度が元に戻ります。上のメッセージが表示された場合、特に問題がなければ辞書再編成を実行してください。

⑤辞書に異常がなく、再編成の必要がない、あるいは再編成を終了した場合は、画面に以下の辞書情報が表示されます。

＜辞書検査／修理・辞書情報画面＞

```
WX2  辞書検査／修理                        Ver 2.71  DOS/V
辞書に異常はありませんでした。                    [Esc:終了]
辞書情報
C:¥WX2S.DIC は1994-03-10  12:00 に作成されました。
サイズ           :  396288バイト     辞書種類      :システム辞書
作成日           :    1994-03-14     ブロックサイズ      :  1Kブロック
最終更新日時 :  0000-00-00      ブロック数      :          384
総単語数         :        49265語    自動拡張ブロック数 :       0
ユーザー登録単語数 :          0語    ブロック拡張率       :       0.0%

[  ] [ヘルプ] [  ] [  ] [  ] [  ] [  ] [  ] [  ] [終了]
```

・サイズ

辞書のファイルサイズです。

・作成日

辞書ファイルの作成日です。

・最終更新日時

辞書ファイルに単語の登録・削除・修正を行なった最後の日付です。

・総単語数

辞書に現在登録されている単語の総数です。

・ユーザー登録単語数

辞書にユーザー登録された単語の数です。

・辞書種類

システム辞書、ユーザー辞書、単漢字変換辞書、単漢字入力辞書の別です。

・ブロックサイズ

辞書のブロックサイズ（1K、2K）です。

・ブロック数

辞書に存在するブロックの総数です。

・自動拡張ブロック数

自動辞書拡張機能によって自動拡張されたブロックの数です。

・ブロック拡張率

全ブロックのうち、自動拡張ブロックの占める割合です。

⑥Esc または F10 を押し、ユーティリティを終了させます。

●辞書に異常が発見された場合

辞書検査の結果、なんらかの異常が発見された場合は、以下のメッセージが表示されます。

<「確認メッセージあり」のとき>

警　告
辞書に異常が見つかりました。 これからの操作を履歴情報として記録することができます。 ファイルに記録を取りますか？ Enter:OK　Esc:CANCEL

<「確認メッセージなし」のとき>

警　告
辞書に異常が見つかりました。 修復操作を記録するエラーログファイルを作成中です。 ファイル名〔DCHKERR.LOG〕

辞書を修復する場合、作業にはいる前に辞書のバックアップを自動的に作成します。バックアップファイル名は、「WX2DBAK.001」となります。もし、同名のファイルがすでに存在している場合は、「WXDBAK.002(003,004...)」となります。

辞書の修復中には、以下のメッセージが表示されます。

<辞書のインデックスを修復している場合>

実行中
辞書のインデックスに異常が見つかりました。 現在修復を試みています。

<辞書ブロック内の単語の文字化けを修復している場合>

実行中
単語データに異常が見つかりました。 単語データの損失箇所を取り除きます。 現在修復を試みています。

<辞書ブロックの位置ずれを修復している場合>

実行中
無効データの混入、有効データの欠落による 辞書ブロックの位置ずれが見つかりました。 現在修復を試みています。

<次ブロック番号を修復している場合>

実行中
自動拡張ブロックの連結情報に異常が見つかりました。 現在修復を試みています。

<辞書の修復が不可能な場合>

警　告
必要な情報が欠落しているため 辞書の修復ができませんでした。 Enter:OK

辞書の修理が完了すると、辞書の再検査を行ないます。再度異常が発見された場合は、辞書の修理を行ないます。異常が発見されない場合は、辞書情報画面を表示します。

※辞書検査／修理ユーティリティで辞書に異常が発見され、かつ修理ができない場合は、その辞書の使用を中止し、辞書のインストールをやり直してください。

付録

付録１．製品のファイル内容

WX2.SYS	ＷＸⅡ⁺フロントエンド部
WX2D.SYS	文法ファイル
WX2DCHK.EXE	辞書検査/修理
WX2DCHK.HLP	辞書検査/修正ヘルプ
WX2S.DIC	スモール辞書
WX2SYS.INI	デフォルト環境ファイル
WXK.SYS	ＷＸⅡ⁺カーネル部･ローダー
WXKC.SYS	ＷＸⅡ⁺カーネル部･本体

付録２．設定ファイル(CONFIG.SYS、WX2SYS.INI)の指定方法

●設定ファイル(CONFIG.SYS)の設定

ＷＸⅡ⁺を使用するには、CONFIG.SYSファイルのDEVICE=指定により、ＷＸⅡ⁺のカーネル部とフロントエンド部の２つを指定します。

＜例＞システムファイルがA:¥WX2というディレクトリにある場合

```
DEVICE=A:¥WX2¥WXK.SYS
DEVICE=A:¥WX2¥WX2.SYS
```

付録３．ローマ字設定

出荷時のローマ字入力規則は以下の通りです。

あ	い	う	え	お	ぁ	ぃ	ぅ	ぇ	ぉ			いぇ		
a	i	u	e	o	la	li	lu	le	lo			ye		
	yi	wu			xa	xi	xu	xe	xo	うぁ	うぃ		うぇ	うぉ
		whu				lyi		lye		wha	whi		whe	who
						xyi		xye						
か	き	く	け	こ	きゃ	きぃ	きゅ	きぇ	きょ	くぁ	くぃ	くぅ	くぇ	くぉ
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyi	kyu	kye	kyo	qwa	qwi	qwu	qwe	qwo
ca		cu		co	くゃ		くゅ		くょ	qa	qi		qe	qo
		qu			qya		qyu		qyo		qyi		qye	
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぎゃ	ぎぃ	ぎゅ	ぎぇ	ぎょ	ぐぁ	ぐぃ	ぐぅ	ぐぇ	ぐぉ
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyi	gyu	gye	gyo	gwa	gwi	gwu	gwe	gwo
さ	し	す	せ	そ	しゃ	しぃ	しゅ	しぇ	しょ	すぁ	すぃ	すぅ	すぇ	すぉ
sa	si	su	se	so	sya	syi	syu	sye	syo	swa	swi	swu	swe	swo
	ci		ce		sha		shu	she	sho					
	shi													
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	じゃ	じぃ	じゅ	じぇ	じょ					
za	zi	zu	ze	zo	zya	zyi	zyu	zye	zyo					
	ji				ja									
					jya	jyi	jyu	jye	jyo					
た	ち	つ	て	と	ちゃ	ちぃ	ちゅ	ちぇ	ちょ	つぁ	つぃ		つぇ	つぉ
ta	ti	tu	te	to	tya	tyi	tyu	tye	tyo	tsa	tsi		tse	tso
	chi	tsu			cha		chu	che	cho	てゃ	てぃ	てゅ	てぇ	てょ
		っ			cya	cyi	cyu	cye	cyo	tha	thi	thu	the	tho
		ltu								とぁ	とぃ	とぅ	とぇ	とぉ
		xtu								twa	twi	twu	twe	two
だ	ぢ	づ	で	ど	ぢゃ	ぢぃ	ぢゅ	ぢぇ	ぢょ	でゃ	でぃ	でゅ	でぇ	でょ
da	di	du	de	do	dya	dyi	dyu	dye	dyo	dha	dhi	dhu	dhe	dho
										どぁ	どぃ	どぅ	どぇ	どぉ
										dwa	dwi	dwu	dwe	dwo

な　に　ぬ　ね　の	にゃ　にぃ　にゅ　にぇ　にょ	
na　ni　nu　ne　no	nya　nyi　nyu　nye　nyo	
は　ひ　ふ　へ　ほ	ひゃ　ひぃ　ひゅ　ひぇ　ひょ	ふぁ　ふぃ　ふぅ　ふぇ　ふぉ
ha　hi　hu　he　ho fu	hya　hyi　hyu　hye　hyo	fwa　fwi　fwu　fwe　fwo
	ふゃ　ふゅ　ふょ	fa　fi　fe　fo
	fya　fyu　fyo	fyi　fye
ば　び　ぶ　べ　ぼ	びゃ　びぃ　びゅ　びぇ　びょ	ヴぁ　ヴぃ　ヴ　ヴぇ　ヴぉ
ba　bi　bu　be　bo	bya　byi　byu　bye　byo	va　vi　vu　ve　vo
ぱ　ぴ　ぷ　ぺ　ぽ	ぴゃ　ぴぃ　ぴゅ　ぴぇ　ぴょ	ヴゃ　ヴぃ　ヴゅ　ヴぇ　ヴょ
pa　pi　pu　pe　po	pya　pyi　pyu　pye　pyo	vya　vyi　vyu　vye　vyo
ま　み　む　め　も	みゃ　みぃ　みゅ　みぇ　みょ	
ma　mi　mu　me　mo	mya　myi　myu　mye　myo	
や　ゆ　よ	ゃ　ゅ　ょ	
ya　yu　yo	lya　lyu　lyo xya　xyu　xyo	
ら　り　る　れ　ろ	りゃ　りぃ　りゅ　りぇ　りょ	
ra　ri　ru　re　ro	rya　ryi　ryu　rye　ryo	
わ　うぃ　うぇ　を　ん	ん　ん　ん	
wa　wi　we　wo　n	nn　n'　xn	

※っ：n 以外の子音の２連続も可
　例　itta → いった

※ん：子音の前のみ n
　母音の前は nn または n'
　例　kanni → かんい
　　　kani → かに

※「ヴ」のひらがなはない

付録４．ＷＸⅡ⁺の品詞について

ＷＸⅡ⁺の国語辞書が扱う品詞は、以下のように分類されています。

●動詞

人やものの動作を表わす語。活用形により分かれています。

品詞名称	特徴
あわ行五段	あわ行五段活用の動詞。「笑う」など わら　“笑”：あわ行五段
か行五段	か行五段活用の動詞。「書く」「動く」など か　“書”：か行五段
さ行五段	さ行五段活用の動詞。「出す」など だ　“出”さ行五段
な行五段	な行五段活用の動詞。「死ぬ」など し　“死”：な行五段
ま行五段	ま行五段活用の動詞。「読む」など よ　“読”：ま行五段
ら行五段	ら行五段活用の動詞。「乗る」など の　“乗”：ら行五段
が行五段	が行五段活用の動詞。「泳ぐ」など およ　“泳”：が行五段
ば行五段	ば行五段活用の動詞。「浮かぶ」など うか　“浮か”：ば行五段
さ変動詞	さ行変格活用の動詞。「する」「察する」「熱する」など さっ　“察”：さ変動詞
ざ変動詞	ざ行変格活用の動詞。「准ずる」「奉ずる」 じゅん　“准”：ざ変動詞
一段動詞	上一段、下一段活用の動詞。「得る」「射る」など え　“得”：一段動詞

●形容詞

性質や状態を表す語で、終止形が「～い」のもの。活用形により分かれています。

品詞名称	特徴
形容詞	「～がる」や「～（し）ゅう」のつかない形容詞。 「粗い」「深い」など あら　“粗”：形容詞
形容詞ガル	「～がる」がつく形容詞。「欲しい」「悔しい」など ほし　“欲しい”：形容詞ガル
形容詞ュウ	「～（し）ゅう」がつく形容詞。「美しい」「惜しい」など うつくし　“美し”：形容詞ュウ

●形容動詞

性質や状態を表す語で、終止形が口語の場合「～だ」、文語の場合「なり」「たり」のつくもの。活用形により分かれています。

品詞名称	特徴
形容動詞	「静かだ」など、「～の」「～たり」のつかない形容動詞。 しずか　“静か”：形容動詞
形容動詞ノ	「甘口の」など、「～の」のつく形容動詞。 あまくち　“甘口”：形容動詞ノ
形容動詞タル	「堂々たる」のように「～と」や「～たる」のつく形容動詞。 どうどう　“堂々”：形容動詞タル

●さ変・ざ変名詞

単独では名詞となるが、「変化する」「論ずる」のように、さ行やざ行の活用語尾を伴って動詞としても使われるもの。

品詞名称	特徴
さ変名詞	「～する」つきで動詞となり、「～的」がつく。「決定」など けってい　“決定”：さ変名詞
さ変名詞非接尾	「～的」などがつかないさ変名詞。「挨拶」「しんみり」など あいさつ　“挨拶”：さ変名非接
ざ変名詞	「～ずる」つきで動詞化する名詞。「命ずる」など めい　“命”：ざ変名詞

●名詞

ものの名称で、主語や目的語となるもの。

品詞名称	特徴
名詞	「～的」などの接尾語がついて形容詞的にも使われる。 「文化」など ぶんか　“文化”：名詞
名詞非接尾	「～的」などの接尾語がつかない名詞。「最終回」など さいしゅうかい　“最終回”：名詞非接尾
数量	ものの数を表わし「～個」「～台」などの助数詞がつく。 「1個」「数［台］」「いく［日］」「何［度］」など すう　“数”：数量
数詞	数を表わし「～個」「～台」などの助数詞がつかないもの 「ひとつ」「ふたつ」など ひとつ　“一つ”：数詞
姓	人名の姓。「佐々木」「小林」など ささき　“佐々木”：姓
名	人名の名。「太郎」「ジョン」「花子」など たろう　“太郎”：名
国	国名。「日本」「ドイツ」「スペイン」など にほん　“日本”：国

品詞名称	特徴
支庁	支庁の名称。「網走支庁」など
	あばしり　“網走”：支庁
県	県の名称。「長野県」など
	ながの　“長野”：県
郡	郡の名称。「諏訪郡」など
	すわ　“諏訪”：郡
区	区の名称。「新宿区」など
	しんじゅく　“新宿”：区
市	市の名称。「松本市」など
	まつもと　“松本”：市
町	町の名称。「秋葉町」など
	あきば　“秋葉”：町
村	村の名称。「赤城村」など
	あかぎ　“赤城”：村
駅	駅の名称。「東京駅」など
	とうきょう　“東京”：駅
地名その他	地名のうち、上記の県名〜駅名に含まれないもの。「八ヶ岳」など
	やつがたけ　“八ヶ岳”：地名その他
社名	会社名、企業名。「〜社」「〜会社」などがつくもの。
	「エー・アイ・ソフト」など
	えーあいそふと　“エー・アイ・ソフト”：社名
固有名詞	固有名詞のうち、製品名や建物の名前のように上記の姓〜社名に含まれないもの。
	「創文」「東京タワー」など
	そうぶん　“創文”：固有名詞

●その他

品詞名称	特徴
副詞	動詞や形容詞を修飾する語。「とにかく」「まったく」など
	とにかく　“とにかく”：副詞
感動詞	感動を表わす独立語。「ああ」「うーむ」「あへ」など
	ああ　“嗚呼”：感動詞
接続詞	２つの文を接続する語。「しかし」「ところで」など
	しかし　“しかし”：接続詞
連体詞	名詞（体言）を修飾するもの。「わが〜」「ある〜」「あの」など
	わが　“わが”：連体詞
慣用句	慣用的な語句。「一攫千金」など
	いっかくせんきん　“一攫千金”：慣用句
単漢字	単漢字
	さんかく　“▲”：単漢字
接頭語	名詞の前について１語となる接頭語のうち数字にはつかないもの。
	「各〜」など
	かく　“各”：接頭語
冠数詞	数字につく接頭語。「第〜」「約〜」など
	だい　“第”：冠数詞
接尾語	名詞の後について１語となる接尾語のうち数字にはつかないもの。
	「〜制」「〜費」など
	せい　“制”：接尾語
助数詞	数字の後につけて単位などを表わす接頭語。「〜個」「〜台」など
	こ　“個”：助数詞

付録５．記号一覧

●特殊記号名一覧

下記の読みで部首変換すると記号の入力ができます。

※コードはＪＩＳコード表示です。

読み	記号	コード
きごう	、 。 ， ． ・ ： ； ？ ！ ゛ ゜ ´ ｀ ¨ ＾ ￣	２１２２～
	＿ ヽ ヾ ゝ ゞ 〃 仝 々 〆 〇 ー ― ‐ ／ ＼ ～	
	‖ ｜ … ‥ ‘ ’ “ ”	
かっこ	（ ） 〔 〕 ［ ］ ｛ ｝ 〈 〉 《 》 「 」 『 』	２１４Ａ～
	【 】	
	＋ － ± × ÷ ＝ ≠ ＜ ＞ ≦ ≧ ∞ ∴ ♂ ♀ °	２１５Ｃ～
	′ ″ ℃ ￥ ＄ ¢ £ ％ ＃ ＆ ＊ ＠ § ☆ ★	
まる	○ ● ◎ ◇ ◆ □ ■ △ ▲ ▽ ▼ ※ 〒 → ← ↑	２１７Ｂ～
	↓ 〓	
あるふぁ	α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π	２６４１～
	ρ σ τ υ φ χ ψ ω	
がいじ	（ユーザが登録した外字）	７Ｆ２１～９８７Ｅ

付録６．ＷＸⅡ$^{+}$使用中のエラーメッセージ一覧

ＷＸⅡ$^{+}$使用中、下記のメッセージが、画面最下行に表示されることがあります。

これらのメッセージが表示されたときは適切な対策を施してください。

なお、環境設定（または設定ファイルによる起動オプション）によって「エラー表示」を「しない」に設定してあるときは、これらのエラーメッセージは表示されません。

「ＩＡＳが有効です。ＷＸ２の組込みを中止します」

【原因】ＷＸⅡ$^{+}$オリジナルフロントエンド部を組み込もうとしたが、ＩＡＳが先に組み込まれた。

【対策】CONFIG.SYSのＩＡＳ指定を無効にするか、削除してください。

「辞書ファイルがありません」

【原因】現在の辞書ファイルパスに辞書ファイルが存在しない。

【対策】辞書ファイル名を変更するか、正しい辞書ディスクをセットしてください。

「辞書ファイルが違います」

【原因】現在の辞書ファイルパスのファイルがＷＸⅡ$^{+}$の国語辞書でない。

【対策】辞書ファイル名を変更するか、正しい辞書ディスクをセットしてください。

「辞書バッファが不足しています」

【原因】国語辞書が大きくなり過ぎて辞書バッファが足りない。

【対策】環境設定で辞書バッファを増やしてください。

「登録できない文字が含まれています」

【原因】単語登録で、単語に改行マークなどの制御コードが含まれている。

【対策】無効な文字を除いた単語を指定してください。

「この読みでこれ以上追加できません」

【原因】同一の読み（見出し）で登録できる最大値を超えて単語を登録しようとした。

【対策】辞書再編成を実行してから登録し直してください。

「ブロックが一杯で登録できません」

【原因】単語を登録しようとして登録用域に空きがない（「自動辞書拡張」を「しないに設定している場合）。

【対策】辞書再編成を実行してから登録し直してください。

「同じ単語が既に登録されています」

【原因】既に辞書にある単語と同一の読み（見出し）、漢字、品詞で登録しようとした。

【対策】既に辞書に登録されているため、登録の必要はありません。もし見出しや品詞を間違えていたら、変更して登録し直してください。

「読みが長すぎます」

【原因】単語登録で半角30文字以上の読みを指定した。

【対策】30文字以内で読みを入力し直してください。

「この単語は登録されていません」

【原因】単語削除で指定した単語が登録されていない。

【対策】辞書にない単語ですから削除の必要はありません。もし単語の範囲指定や見出し入力を間違えていたら、変更して登録し直してください。

「ディスクが一杯です」

【原因】国語辞書を格納してあるディスクが一杯で辞書を拡張できない（「自動辞書拡張」を「する」に設定している場合）。

【対策】不要のファイルを削除してください。削除するファイルがないときは、国語辞書の「格納率」を大きくして辞書再編成をするか、「辞書圧縮」を行って辞書の容量を小さくしてください。

「読みが違います」

【原因】部首変換で、対応する部首名がない。

【対策】正しい部首名を指定して実行し直してください。

「変換できません」

【原因】組み込まれていないオプション機能を実行しようとした。

【対策】オプション機能（オプション単漢字変換、オプション単漢字入力）を使用したいときは、オプション機能を組み込んでください。

「ＫＫＣＦＵＮＣ．ＳＹＳが組み込まれていないので組み込めません」

【原因】ＬＸＫＫＣ．ＳＹＳがインストールされていない。

【対策】ＬＸＫＫＣ．ＳＹＳをＷＸⅡ+の前に組み込んでください。

付録7．起動オプション

起動オプションは、複数のパラメータから構成されます。

各パラメータは、次のような形式で構成されます。（{} は省略が可能）

／　英字パラメータ　{数値パラメータ1}　{数値パラメータ2}

数値パラメータの省略時や数値パラメータに無効値が与えられた場合は、パラメータ未指定として処理します。

ＷＸ２？？．ＳＹＳのパラメータ

（WX2??.SYS のデバイス行および WX2SYS.INIの OPTION= で有効です。）

パラメータ	パラメータ指定時の解釈	パラメータ未指定時の解釈
/A{?1}	使用する拡張メモリ種類 1,2,3 ?1 拡張メモリ種類 1　EMS 3　EMS 5　EMS＋UMB	使用しない
/D{?1}	辞書パス名指定 ?1 辞書パス名	辞書パス名　A:¥WX2.DIC
/D*{?1}	システム辞書パス名指定 ?1 システム辞書パス名	辞書はひとつだけ使用する
/R	かな入力	ローマ字入力
/Z{?1}	起動時の入力モード指定 ?1 起動時の入力モード 0　全角ひらがな 1　半角カタカナ 2　半角英数 3　半角ひらがな	起動時のモードを全角ひらがな入力にする
/H{?1}{?2}	変換モード指定 ?1 変換モード 0　連文節 1　複合語優先連文節変換 2　自動変換 ?2 自動変換時のモード 0　自動確定 1　自動確定禁止	連文節変換モード 自動変換時は自動確定
/L	自立語学習機能ＯＦＦ 接頭語学習機能ＯＦＦ 文節学習機能ＯＦＦ 不定語登録機能ＯＦＦ ※ /L は、/LS /LB /Fに優先する	自立語学習機能ＯＮ
/C{?1}	コード選択時コード体系指定 ?1 コード体系 0　ＪＩＳコード 1　シフトＪＩＳコード 2　区点コード	ＪＩＳコード

パラメータ	パラメータ指定時の解釈	パラメータ未指定時の解釈
/K{?1}{?2}	句読点・記号指定 ?1　句読点 0　、。 1　，． 2　、． 3　，。 ?2　記号 0　[]／ 1　「」・ 2　「」／ 3　[]・	「、。「」・
/LB	文節学習機能ＯＦＦ	文節学習機能ＯＮ
/LS	接頭語学習機能ＯＦＦ	接頭語学習機能ＯＮ
/F	不定語登録機能ＯＮ	不定語登録機能ＯＦＦ
/VI	候補一覧表示しない	候補一覧表示する
/VF	ファンクションガイドを表示しない	ファンクションガイドを表示する
/J{?1}	候補一覧までの次候補回数指定 ?1　次候補の回数 １～２５５	次候補２回で候補一覧を表示する
/X{?1}	最大入力文字数指定 ?1　入力文字数 １～１００	最大入力文字数は１００文字
/E	エラー表示しない	エラー表示する
/EB	エラー音なし	エラー音あり
/INI={?1}	環境ファイル名指定 ?1　環境ファイル名	環境ファイル名　WX2??.SYSと 同じディレクトリの WX2SYS.INI

（以下のオプションは WXK.SYSの DEVICE行でも有効です。）

パラメータ	パラメータ指定時の解釈	パラメータ未指定時の解釈
/HK	連文節時に句読点で変換する	句読点変換しない

※制限事項

パス名は、ﾄﾞﾗｲﾌﾞ:¥ で始まる６２桁以内の文字列としてください。

付録８．部首読み一覧

●部首名一覧表

部首変換において下記の読みを入力すると第２水準の単漢字変換ができます。

※ コードはＪＩＳコード表示です。

画数	部首	部首名	漢字	ｺｰﾄﾞ～
一画	一	いち	弌	5021～
	个	ぼう	个	5024～
	丶	てん	丶	5026～
	丿	のめ	丿	5028～
	乙	おつ・おつにょう	亂	502C～
	亅	はねぼう	亅	502D～
二画	二	にに	弍	5031～
	亠	なべぶた けいさんかんむり	亠	5035～
	人	ひと・やね にんべん	从	503A～
	儿	ひとあし にんにょう	儿	5139～
	入	いりがしら いりやね・いる	兩	5140～
	八	はち・はちがしら	兮	5142～
	冂	えんがまえ けいがまえ まきがまえ	冂	5144～
	冖	わかんむり	冖	514C～
	冫	にすい	冫	5152～
	几	つくえ	几	515C～
	凵	うけばこ かんにょう	凵	5161～
	刀	かたな・やいば りっとう	刄	5163～
	力	ちから	劬	5222～
	勹	つつみがまえ くく	勹	5231～
	匕	さじのひ	匕	5238～
	匚	はこがまえ	匚	5239～
	匸	かくしがまえ	匸	523E～
	十	じゅう	卆	5240～
	卜	ぼくのと	卞	5246～
	卩	ふしつくり	卩	5247～
	厂	がんだれ	厂	524C～
三画	厶	むむ	厶	5253～
	又	また	叟	5256～
	口	くち・くちへん	叮	525A～
	囗	くに・くにがまえ	囗	5378～
	土	つち・つちへん どへん	圦	5429～
	士	さむらい	壯	5463～
三画	夂	ふゆがしら	夂	5469～
	夊	すいにょう	夊	546A～
	夕	ゆうべ	夛	546C～
	大	だい	夬	546F～
	女	おんな おんなへん	奸	5521～
	子	こへん	孑	5553～
	宀	うかんむり	宀	555F～
	寸	すん	尅	5571～
	小	ちいさい なおがしら	尓	5575～
	尢	まげあし	尢	5577～
	尸	しかばね しかばねかんむり	尸	5579～
	屮	てつ	屮	5625～
	山	やま・やまへん	屶	5626～
	巛	まがりがわ さんぼんがわ	巛	565F～
	工	たくみ	巫	5660～
	已	おのれ	已	5661～
	巾	はば・はばへん きんべん	帋	5663～
	干	ほす	幵	5674～
	幺	いとがしら	幺	5676～
	广	まだれ	广	5678～
	廴	えんにょう いんにょう	廴	572E～
	廾	にじゅうあし	廾	5730～
	弋	しきがまえ	弋	5735～
	弓	ゆみ・ゆみへん	弖	5737～
	彑	けいがしら	彑	5740～
	彡	さんづくり さんずくり	彡	5744～
	彳	ぎょうにんべん	彳	5746～
四画	心	こころ したごころ りっしんべん	忖	5756～
	戈	かのほこ ほこがまえ	戈	5879～
	戸	とびらのと とだれ とかんむり	扁	5928～
	手	てへん	扎	5929～

画数	部首	部首名	漢字	ｺｰﾄﾞ～
四画	支	とまた・のぶん ぶん・ぼくにょう ぼくづくり	支	5A3D～
	斗	とます	斛	5A4F～
	斤	きん・おのつくり おの	斫	5A51～
	方	ほう・ほうへん かたへん	旃	5A53～
	无	すでのつくり	旡	5A5B～
	日	にち・にちへん ひらび	旱	5A5D～
	月	つき・つきへん	朏	5B2C～
	木	きへん	朮	5B32～
	欠	かける・あくび おくび	欸	5D37～
	止	とめる・とめへん	歸	5D45～
	歹	いちた・がつへん	歹	5D46～
	殳	るまた ほんつくり	殳	5D55～
	毋	なかれ	毋	5D59～
	毛	けけ	毟	5D5B～
	氏	うじ	氓	5D62～
	气	きがまえ	气	5D63～
	水	みず・したみず さんずい	汞	5D67～
	火	ひへん・よってん れんが	炙	5F55～
	爪	つめ・のつ	爭	6027～
	爻	めめ	爻	602B～
	爿	しょうへん	爿	602D～
	片	かた	牋	6030～
	牛	うし・うしへん	牴	6032～
	犬	いぬ・けものへん	狄	603B～
五画	玉	たまへん・たま おうへん	珈	605D～
	瓜	うり	瓠	6121～
	瓦	かわら	瓩	6123～
	甘	あまい	甞	6133～
	生	うまれる	甦	6134～
	用	もちいる	甬	6135～
	田	たた	甼	6136～
	疒	やまいだれ	疔	614B～
	癶	はつがしら	癶	6222～
	白	しろ	皀	6225～
五画	皮	ひのかわ・けがわ	皰	622E～
	皿	さら	盂	6233～
	目	めへん	盻	623D～
	矛	むのほこ ほこへん	矜	6262～
	矢	やや・やへん	矣	6263～
	石	いし・いしへん	矼	6265～
	示	しめす・ねへん しめすへん	祀	632B～
	禸	ぐうのあし	禹	633B～
	禾	のぎ・のぎへん	秉	633D～
	穴	あな あなかんむり	穹	6356～
	立	たつ・たつへん	竏	6367～
六画	竹	たけ たけかんむり	笂	6373～
	米	こめ・こめへん	籵	6462～
	糸	いと・いとへん	糺	647D～
	缶	ほとぎ	缸	657D～
	网	あみがしら よんがしら	网	6626～
	羊	ひつじ ひつじへん	羌	6635～
	羽	はね	翅	6642～
	老	おい・おいがしら	耆	664D～
	耒	らいすき すきへん	耒	6650～
	耳	みみ・みみへん	耿	6656～
	聿	ふでづくり ふでずくり	聿	6666～
	肉	にく・にくづき	肛	666A～
	臣	しん	臧	6749～
	至	いたる	臺	674A～
	臼	うす	臾	674C～
	舌	した・したへん	舍	6752～
	舟	ふね・ふねへん	舩	6755～
	艮	こん	艱	6765～
	色	いろ	艶	6766～
	艸	くさ・くさかんむ り・くさがんむり	艸	6767～
	虍	とらがしら とらかんむり	虍	6948～
	虫	むし・むしへん	虱	694D～
	血	ちち	衄	6A48～

画数	部首	部首名	漢字	コード～
六画	行	ゆきがまえ ぎょう	衒	6A4A～
	衣	ころも ころもへん	衫	6A4E～
	覀	にし	覀	6B28～
七画	見	みる	覓	6B2C～
	角	つの・つのへん かくへん	觚	6B38～
	言	ことば・ごんべん	訃	6B3E～
	谷	たに・たにへん	谺	6C2E～
	豆	まめ・まめへん	豈	6C31～
	豕	いのこ いのこへん	豕 香	6C35～
	豸	むじな むじなへん	豸	6C38～
	貝	かい・かいへん こがい	貶	6C43～
	赤	あか	赧	6C5F～
	走	はしる そうにょう	赱	6C61～
	足	あし・あしへん	趾	6C65～
	身	みへん	躬	6D3B～
	車	くるま くるまへん	軋	6D42～
	辛	からい	辜	6D63～
	辶	しんにゅう しんにょう	辷	6D68～
	邑	むら・おおざと	邨	6E37～
	酉	さけのとり とりへん ひよみのとり	酊	6E44～
	釆	のごめ のごめへん	釉	6E58～
	里	さと・さとへん	釐	6E5A
八画	金	かね・かねへん	釖	6E5B～
	門	もん・もんがまえ	閂	6F59～
	阜	ぎふのふ・こざと こざとへん	阡	6F74～
	隶	れいづくり	隶	7030～
	隹	ふるとり	隹	7032～
	雨	あめ あめかんむり	雹	703B～
	青	あお	靜	7050
	非	あらず	靠	7051

画数	部首	部首名	漢字	コード～
九画	面	めん	靤	7052～
	革	かくのかわ・かわ かわへん つくりかわ	勒	7055～
	韋	なめしがわ	韋	706A～
	韭	にら	韭	706C～
	音	おと	竟	706F～
	頁	おおがい	頏	7072～
	風	かぜ	颪	7124～
	食	しょく しょくへん	飩	712B～
	首	くび においこう	馗 馥	7144～ 7146～
十画	馬	うま・うまへん	馭	7147～
	骨	ほね・ほねへん	骭	716C～
	髟	かみがしら かみかんむり	髟	7175～
	鬥	とうがまえ たたかいがまえ	鬥	7228～
	鬯	ちょう	鬯	722E～
	鬲	かく	鬲	722F～
	鬼	おに・きにょう	魄	7230～
十一画	魚	うお・さかな うおへん さかなへん	魴	7237～
	鳥	とり	鳬	726A～
	鹿	しか	麁	7346～
	麦	むぎ・ばくにょう	麥	734E～
	麻	あさ あさかんむり	麾	7353～
	黄	きいろ	黃	7354～
	黍	きび	黎	7355～
	黒	くろ	黔	7358～
十二画以上	黹	ふつ	黹	7363～
	黽	べん	黽	7366～
	鼓	つづみ・つずみ	鼓	7369～
	鼠	ねずみ	鼡	736B～
	鼻	はな・はなへん	鼾	736D～
	齊	せい	齊	736E～
	齒	はは・はへん	齒	736F～
	龍	りゅう	龕	737C～
	龜	かめ	龜	737D～
	龠	やく	龠	737E～

MIFES－mini

ユーザーズマニュアル

Ver 2.31

第１章　ＭＩＮＩの起動

１．１　起動方法

起動書式

MINI　［起動オプション］　［パス名］

解説

パス名にはＭＩＮＩで編集したいファイル名を指定します。このファイル名はドライブ名やディレクトリ名を含んだフルパス名や相対パス名でもかまいません。またＤＯＳの認識する１行の範囲内ならば、半角のスペースで区切って最大１０までのファイル名を指定できます。

例１.　MINI　test.doc　sample.txt　log0928.txt
例２.　MINI　c:sample.c　b:¥log¥log0921.txt
例３.　MINI　..¥source¥main.c

さらにこのパス名の代りにワイルドカード（ ＊ や ？ ）を含む文字列を指定した場合には、そのワイルドカードに一致するファイル名の一覧を表示し、編集ファイル名の入力状態になります。

例４.　MINI　*.txt
例５.　MINI　c:¥long¥*.txt

またパス名の代りにドライブ名やディレクトリ名を指定した場合には、そのドライブやディレクトリ上のファイル名一覧を表示し、編集ファイル名の入力状態になります。ここでドライブ名とは、半角の英字１文字の後に半角のコロン（:）を付けたものです。また、ディレクトリ名の最後には半角の ¥ 記号を付けても付けなくてもかまいません。指定したパス名がファイル名であるかディレクトリ名であるかは、ＭＩＮＩが自動的に判断します。

例６.　MINI　b:
例７.　MINI　c:¥log¥
例８.　MINI　..¥log

また起動オプション以外には何も指定しなかった場合、カレントディレクトリ上のすべてのファイル名の一覧を表示し、編集ファイル名の入力状態になります。

例９.　MINI　-wc -ea
例10.　MINI

なお編集ファイル名の特殊な指定方法として、初期ジャンプ行の指定が可能です。初期ジャンプ行の指定は、ファイル名の直後に半角の + 記号を置きその後にそのファイルをオープン直後に自動的にジャンプさせたい行番号（論理行番号：改行から改行までを１行とする行番号）を指定します。ファイル名と + 記号、および + 記号と行番号の間にはスペースを入れてはいけません。

１．２　起動オプション

起動オプションはＭＩＮＩを起動したときの編集環境を設定するためのものです。起動オプションを付けないで起動すると、ＭＩＮＩのプログラム本体で予め規定した編集環境に設定します。起動オプションは必ず半角のハイフン（-）で始まる半角文字列です。ハイフンの直後の１文字または２文字でオプションの種別を表します。この文字は大文字でも小文字でもどちらでも構いません。また必要な場合にはこの文字の直後に数値を指定する場合もあります。

起動時のコマンドラインに起動オプションを複数記述することもできます。複数の起動オプションを指定する場合、起動オプションの間は半角スペースで区切っても、連続して記述してもどちらでも構いません。

```
例１．　MINI　-wc　-f5　-ba
例２．　MINI　-wc-f5-ba
例３．　MINI　-WC-F5-BA　LOG0922.TXT
```

以下にそれぞれの起動オプションを説明します。以下の説明ではハイフン直後のオプション文字は大文字で表します。また数値の指定が必要な場合には小文字の n または n1～n4 で表します。

-B

CRコード（0DH）とLFコード（0AH）を別々に扱うバイナリー編集モードで起動します。またバイナリー編集モードではEOFコード（1AH）はファイルの終りを表すものではなく、単なる1バイトの制御データとして扱われます。このオプションを指定しない場合（テキスト編集モード）では、EOFコードをもってファイルの終りと見なします。また連続するCRコードとLFコードはまとめて改行文字として扱います。詳しくは以下の表を参照してください。

-BA

EOFコード（1AH）を無視する（ファイルの終りと見なさない）テキスト編集モードで起動します。なお連続するCRコードとLFコードはまとめて改行文字として扱います。詳しくは以下の表を参照してください。

	ｵﾌﾟｼｮﾝなし	-BA ｵﾌﾟｼｮﾝ指定	-B ｵﾌﾟｼｮﾝ指定
ﾌｧｲﾙの終りの判定方法	EOFコード(1AH)	物理的なﾃﾞｰﾀの終りで判定	
CRｺｰﾄﾞとLFｺｰﾄﾞが連続して現われた場合	改行文字として扱い、ｾｰﾌﾞ時にはCRｺｰﾄﾞとLFｺｰﾄﾞの2ﾊﾞｲﾄでｾｰﾌﾞする		CRｺｰﾄﾞと改行文字として扱い、ｾｰﾌﾞ時もそのまま2ﾊﾞｲﾄでｾｰﾌﾞ
単独のCRｺｰﾄﾞ(0DH)	そのままCRｺｰﾄﾞとして扱う		
単独のLFｺｰﾄﾞ(0AH)	改行文字として扱い、ｾｰﾌﾞ時には CR·LFの2ﾊﾞｲﾄに変換する		改行文字として扱い、ｾｰﾌﾞ時にもLFｺｰﾄﾞ1ﾊﾞｲﾄのままｾｰﾌﾞ
ENTERキーによる改行文字の挿入	CR·LFｺｰﾄﾞ2ﾊﾞｲﾄの挿入に相当する		LFｺｰﾄﾞ1ﾊﾞｲﾄの挿入に相当する

-C

桁位置ゲージの表示を指定します。桁位置ゲージは編集テキストの上側に表示される定規のようなもので、反転マークでカーソル位置の桁位置を示しています。桁位置ゲージで示すのはカーソル位置の画面上での桁位置（1～160）です。これに対して編集画面のガイドラインに表示する桁位置（［と］で囲って表示した２つの数値のうちの右側）は、カーソル位置の論理行の先頭からのバイト位置（１～1000）です。この２つの桁位置は、ハードタブを含む行や折れ返り表示している行などでは異なった値になります。注意してください。プログラム作成などの時には、桁位置よりもバイト位置の方が便利なことが多いでしょう。桁位置ゲージの表示／非表示は、起動後にも切り換えることができます。

-En

子プロセスの実行のために最低でも n Kﾊﾞｲﾄのメインメモリーを空けておくように指定します。n のデフォルトは32です。

例１.　　MINI　-E256
例２.　　MINI　-E0　　　　(ﾒｲﾝ･ﾒﾓﾘｰはすべて使用してよい)

ＭＩＮＩでは、子プロセスの実行に先立ちＭＩＮＩが使用していないメモリは自動的

に解放し（使用中のメモリーは解放しない）、子プロセスが終了すると解放した分のメモリを自動的に再取得するようになっています。このため、大きなファイルを編集中の場合（未使用のメイン·メモリーが少ない場合）でなければ、-Enオプションを指定しなくてもかなり大きな子プロセスまで実行することができます。-En オプションの意味は、どんなにメイン メモリーを使用した場合でも最低 n Kバイトは空けておくようにする、ということです。従って通常は n Kバイトよりも大きなメイン メモリーが空いているため、n Kバイト以下の子プロセスしか実行できないと言うことはありません。

ＭＩＮＩは、使用可能なメイン·メモリーを使い切った後まだ作業領域が不足している場合には、指定された作業ディスク（-Wd オプション参照）上にテンポラリー·ファイルを作成し、このファイルを作業領域とすることにより、最大２Mバイトまでのファイルが編集できます。

-EA

ＭＩＮＩの起動後に空いているメイン·メモリーはすべて子プロセスの実行のために空けておくことを指定します。このオプションが指定された場合、メイン·メモリーを作業領域として使用できないために、起動時に作業ドライブ上にテンポラリーファイルが作成されます（通常はメイン·メモリーを使い切った時に作成される）。なお、-Wd オプションの説明も参照してください。

-Fn1:n2:n3:n4

カーソルの形状を指定します。-F の直後に４つの数値（n1、n2、n3、n4）を半角のコロン（:）で区切って指定します。数値とコロンの間にスペースを入れてはなりません。n1～n4の値は以下の意味を持ちます。なお後の括弧の中の数値はこのオプションを指定しない場合のデフォルトの値です。なお数値には通常 0～7 の値を指定します。

n1　挿入カーソルのスタートラスタ位置（0）
n2　挿入カーソルのエンドラスタ位置（7）
n3　上書カーソルのスタートラスタ位置（0）
n4　上書カーソルのエンドラスタ位置（7）
なお、n3～n4を省略すること、n2～n4を省略することも可能です。

例１.　　MINI　-F5:7:0:7
例２.　　MINI　-F3:7
例３.　　MINI　-F5

-Gn1:n2:n3:n4

起動時および終了時に設定するキーリピートを指定します。このオプションを指定しない場合、ＭＩＮＩは自身ではキーリピートの設定は行いません。-G の直後に４つの数値（n1、n2、n3、n4）を半角のコロン（:）で区切って指定します。数値とコロンの間にスペースを入れてはなりません。

n1～n4の値は以下の意味を持ちます。なお後の括弧の中は指定する数値の単位です。

n1　起動時に設定するキーリピート開始までの時間（ミリ秒）

n2　起動時に設定するキーリピート間隔（回／秒）
n3　終了時に設定するキーリピート開始までの時間（ミリ秒）
n4　終了時に設定するキーリピート間隔（回／秒）
なお通常、キーリピート開始までの時間には 500 ミリ秒程度の値を指定し、キーリピート間隔には 10～20 回／秒程度の値を指定します。

例１．　MINI　-G500:20:500:12

-Hn

TABキーを押したときにカーソルが移動する位置（タブストップ）の桁間隔を指定します。n には 2、4、8、16 のいずれかの数値を指定することができます。デフォルトは8桁です。

例１．　MINI　-H4

-I

オートインデントを行う状態で起動します。オートインデントとは、改行時に上の行と同じ桁位置に自動的に段下げ（インデント）を行なう機能です。インデントはタブコードと半角スペースを用いて行います（ただしできるだけタブコードを多く使用する）。オートインデントの有効／無効は、起動後にも切り換えることができます。

-K

キークリック音を有効に指定します。

-Mn

右マージンを n 桁に指定します。n には 16～160 の値が指定できます。右マージンとは、長い論理行などを表示する際に、画面上で折れ返し表示する時の折れ返し桁位置のことです。このオプションを指定しない場合のデフォルトでの右マージンは８０桁（すなわち画面の右端）です。

例１．　MINI　-M36

-N

行番号の表示を指定します。行番号は編集テキストの左側に表示されます。表示される行番号はその位置での論理行番号を表します。論理行番号とは、改行文字までの文字列（段落）を１行としてファイルの先頭から数えた行番号のことです。
行番号の表示／非表示は、起動後にも切り換えることができます。

-Pstr

ファイル名の入力時のファンクションキー（F2キーおよびF3キー）に定義する文字列を指定します。このオプションは２つまで指定可能です。１つ目（左側）の -Pstr オプションで指定された文字列がファイル名の入力時のF2キーに定義され、２つ目（右側）の -Pstr オプションで指定された文字列がファイル名の入力時のF3キーに定義

されます。
このオプションは、頻繁に入力するワイルドカード文字列などを、ファンクションキーの１キーで入力できるようにするためのものです。

例１.　MINI　-P*.log
例２.　MINI　-P*.c　-P*.asm

-Q

起動時の検索モードを英大文字･小文字を区別しないモードに指定します。検索モードが英大文字･小文字を区別しないモードの時、検索時に半角の英字の大文字（A、、、Z）と小文字（a、、、z）を区別せずに検索を行います。
例えば、検索文字列に"mini"と指定した場合に、テキスト中の"mini"だけでなく同時に"MINI"も検索します。検索モードの区別／同一視は、起動後にも切り換えることができます。

-V

既存ファイルのオープン時にファイル全体を一度に作業領域に読み込むように指定します。このオプションを指定しない場合のデフォルトでは、ファイルをオープンする時にその内容全部を読み込むのではなく、ファイルの先頭から約１画面分（4KB～10KB）だけ読み込んで起動し、読み込んだ部分より後の部分を編集画面に表示する必要が生じた時にその都度読み足していきます。ただし、一度読み込んだテキストはメモリ上の作業領域に記録します。
-V オプションを指定して起動した場合には、オープンしたファイルの内容はオープン時に全て作業領域に読み込みます。このため、編集中にディスク上のファイル（オリジナルファイル）を読みに行くことがなくなります。
ただし、ファイルサイズが大きい場合には、オープン時にファイル全部を読み込むと時間がかかります。このため、ファイルの先頭部分を手直しするだけの場合は -V オプションを指定しない方が能率的です。

-Wd

作業ドライブを d ドライブに指定します。すなわち、作業領域としてメイン･メモリーを使い切った際には、ドライブ d にテンポラリ･ファイルを作成し、それを作業領域とします。
このオプションを指定しない場合のデフォルトでは、作業ディスクは起動時のカレントドライブになります。作業ドライブにＲＡＭディスクやハードディスクを指定すれば、処理が高速になり操作が軽快になります。

例１.　MINI　-wc

作業領域としてメイン･メモリーを使い切り、テンポラリ･ファイルを作成する際には、確認のためのメッセージが表示されます。ただし、-EA オプションまたは -Wd オプションを指定した場合には、このメッセージは表示されません。

-'n

スクロールマージンを n 行に指定します。n には 0〜7 の値が指定できます。ＭＩＮＩではカーソルの上下移動キー操作（▲、▼、CTRL+E、CTRL+X）が押された時に、カーソルが画面の上下端に達しないでもスクロールを開始するようにできます。この時、画面の上下端とスクロールを開始する行位置との間の行数のことをスクロールマージンと言います。

例１．　MINI　-'3

-$

ＦＥＰ（日本語フロント·エンド·プロセッサ：ＷＸⅡ+など）の自動制御を有効にすることを指定します。ＦＥＰの自動制御とは、全角文字の入力が無効な所で自動的にＦＥＰをオフにして、入力が終了したら自動的に元のＦＥＰの状態に戻すことを言います。

第2章　ＭＩＮＩの操作

２．１　基本的な操作

編集の開始

ファイルの編集を開始する場合には、それが既存のファイルである場合も新しく作成するファイルである場合も、ファイル名を指定してそのファイルの編集を開始します。これをファイルを開くまたはオープンすると言います。編集するファイル名の指定は、起動時のコマンドライン上で指定するか、起動時にはファイル名は指定せずにＭＩＮＩを起動し、ファイル名の入力画面になったらそこでファイル名を入力します。既存のファイルを編集する場合には、後者の方法でファイル名の一覧画面を呼び出し、そこに表示されたファイル名一覧から編集したいファイルを選択する方法が簡単です。

編集の終了

ファイルの編集を終了する場合には、F1キーを押して「ファイル／状態切り換え」メニューを呼び出し、編集結果をディスクに保存して編集を終了したい場合には、「現テキストのセーブと編集終了」を選択します。編集結果をディスクに保存せずに編集を終了したい場合には、「現テキストの強制的な編集終了」を選びます。なお、編集中のファイルのことをテキストとも言います。また、編集した結果をディスクに書き出し保存することをセーブすると言います。

カーソルの移動

ＭＩＮＩでの編集操作は、文字や文字列を挿入／削除したい場所をカーソルと呼ぶ反転マークで指定します。カーソルはカーソル移動キー（▲、▼、◀、▶）で上下に１行ずつ、左右に１文字ずつ移動させることができます。また、カーソルには挿入状態と上書状態の２つの状態があります。現在どちらの状態になっているかは、編集画面の最上行に〈挿入〉または［上書］と表示されていることで解ります。挿入状態と上書状態は INSキーで切り換えることができます。挿入状態と上書状態の違いは、文字キーを押してテキスト中に文字を入力する時の動作が異なります。挿入状態ではカーソル位置にその文字が挿入されるのに対して、上書状態ではカーソル位置の文字が入力した文字と置き代わります。

文字の挿入／削除

文字の挿入は、挿入したい位置にカーソルを移動してから、そのまま挿入したい文字のキーを押します。文字の削除は、削除したい文字の位置にカーソルを移動してからDELキーを押します。

行の挿入／削除

カーソルが挿入状態の時に ENTERキーを押すことにより、カーソルのある位置でその行を２行に分割することができます。従って、カーソルを改行文字の位置（行末）に移動させておいてから ENTERキーを押せば、下に空の行を１行挿入することができます。また、カーソルを改行文字の位置に移動し、その改行文字を DELキーで削除すれば、その行とその下の行を連結することができます。行の削除は、削除したい行にカーソルを移動させてから CTRL+Yキーを押すことで、カーソルのある１行を削除することができます。また、この時削除した行の内容は CTRL+Lキーでカーソル行の上に挿入することができます。

文字列の削除／移動／複写

文字列の削除／複写／移動は、カット、コピー、ペーストと呼ばれる３つの操作を組み合わせて行います。３つの操作はカットバッファと呼ばれる記憶領域を使用します。ＭＩＮＩのカットバッファには行カットバッファと文字列カットバッファの２つがあり、それに応じて３つの操作も、行カットバッファを使用するもの（行カット、行コピー、行ペースト）と文字列カットバッファを使用するもの（文字列カット、文字列コピー、文字列ペースト）の２系統があります。削除／移動／複写したいテキストの範囲が行の先頭から行の末尾までの場合には、行カット／行コピー／行ペーストを使用し、それ以外の範囲の場合には、文字列カット／文字列コピー／文字列ペーストを使用するようにします。なお、行カットバッファも文字列カットバッファも実体は作業ドライブ上に作成されたファイルであるため、ディスクに十分な空きがある場合にはバッファの大きさには制限はありません。すなわち、どんな大きな範囲でも削除／移動／複写することができます。行カットは、行単位で選択した範囲をテキスト中から行カットバッファへ移動する操作です。行カットにより行単位で文字列を削除することができます。また行カットと行ペーストを組み合わせることにより、行単位で文字列を移動することができます。行カットは以下の手順で行います。

(1) 選択範囲の先頭の行にカーソルを移動します。
(2) 行単位選択開始キー（F6キー）を押します。ガイドラインに「行範囲指定中」と表示されます。
(3) 選択範囲の末尾の行の下の行にカーソルを移動します。選択されたテキスト範囲が白反転で表示されます。範囲選択操作を中止したい場合には再度 F6キーを押します。
(4) カットキー（F7キー）押します。白反転で表示された部分がテキスト中から削除され、行カットバッファに移動します。

行コピーは、行単位で選択した範囲をテキスト中から行カットバッファへ複写する操作です。行コピーと行ペーストを組み合わせることにより、行単位で文字列を複写することができます。行コピーは以下の手順で行います。

(1) 選択範囲の先頭の行にカーソルを移動します。
(2) 行単位選択開始キー（F6キー）を押します。ガイドラインに「行範囲指定中」と表示されます。

(3) 選択範囲の末尾の行の次の下にカーソルを移動します。選択されたテキスト範囲が反転で表示されます。範囲選択操作を中止したい場合には再度 F6キーを押します。
(4) コピーキー（F8キー）押します。反転で表示された部分が行カットバッファに複写されます。この時テキスト中からは削除されません。

行ペーストは、行カットバッファの内容をカーソル行の上に挿入する（ペーストする）操作です。行コピーと行ペーストを組み合わせることにより、行単位で文字列を複写することができます。行ペースト後も行カットバッファの内容は保存されるため、何回も行ペーストを行うことにより、同じ内容の文字列を何ヶ所にも複写することができます。また行カットと行ペーストを組み合わせることにより、行単位で文字列を移動することができます。これも何回も行ペーストを行うことにより、同じ内容の文字列を何ヶ所にも移動することができます。行ペーストは以下の手順で行います。
(1) 挿入位置（複写先／移動先）の下の行にカーソルを移動します。
(2) 行ペーストキー（F9キー）を押します。カーソル行の上に行カットバッファの内容が挿入されます。

文字列カットは、１文字単位で選択した範囲をテキスト中から文字列カットバッファへ移動する操作です。文字列カットにより任意の文字列を削除することができます。また文字列カットと文字列ペーストを組み合わせることにより、任意の文字列を移動することができます。文字列カットは以下の手順で行います。
(1) 選択範囲の先頭の文字にカーソルを移動します。
(2) 文字単位選択開始キー（SHIFT+F6キー）を押します。ガイドラインに「範囲指定中」と表示されます。
(3) 選択範囲の末尾の文字の次の文字にカーソルを移動します。選択されたテキスト範囲が反転で表示されます。範囲選択操作を中止したい場合には再度 SHIFT+F6キーを押します。
(4) カットキー（F7キー）押します。反転で表示された部分がテキスト中から削除され、文字列カットバッファに移動します。

文字列コピーは、１文字単位で選択した範囲をテキスト中から文字列カットバッファへ複写する操作です。文字列コピーと文字列ペーストを組み合わせることにより、任意の文字列を複写することができます。文字列コピーは以下の手順で行います。
(1) 選択範囲の先頭の文字にカーソルを移動します。
(2) 文字単位選択開始キー（SHIFT+F6キー）を押します。ガイドラインに「範囲指定中」と表示されます。
(3) 選択範囲の末尾の文字の次の文字にカーソルを移動します。選択されたテキスト範囲が反転で表示されます。範囲選択操作を中止したい場合には再度 SHIFT+F6キーを押します。
(4) コピーキー（F7キー）押します。反転で表示された部分が文字列カットバッファに複写されます。この時テキスト中からは削除されません。

文字列ペーストは、文字列カットバッファの内容をカーソル位置に挿入する（ペース

トする）操作です。文字列コピーと文字列ペーストを組み合わせることにより、任意の文字列を複写することができます。文字列ペースト後も文字列カットバッファの内容は保存されるため、何回も文字列ペーストを行うことにより、同じ内容の文字列を何ヶ所にも複写することができます。また文字列カットと文字列ペーストを組み合わせることにより、任意の文字列を移動することができます。これも何回も文字列ペーストを行うことにより、同じ内容の文字列を何ヶ所にも移動することができます。
文字列ペーストは以下の手順で行います。

(1) 挿入位置（複写先／移動先）にカーソルを移動します。
(2) 文字列ペーストキー（SHIFT+F9キー）を押します。カーソル位置の文字列カットバッファの内容が挿入されます。

同時に複数のファイルを編集

ＭＩＮＩでは同時に最大１０ファイルまで編集できます。これにより、複数のファイル間で文字列の移動や複写が可能です。同時に複数のファイルを編集するには、起動時に複数のファイル名を指定するか、または、あるファイルの編集を終了する前に別のファイルをオープンします。編集中に別のファイルをオープンするには、F2キーを押して

「編集テキストの切り換え」メニュー

を表示し、その中から

「新しいファイルの編集」

を選択します。そしてオープンしたいファイルのファイル名を入力します。詳しくは「２．４　ファイル名の入力時の操作」を参照してください。

同時に複数のファイルを編集中の場合でも、カーソルが表示され編集操作が可能な状態になっているファイルは１つだけです。このファイルをカレントファイルまたはカレントテキストと呼びます。カレントテキストの切り換えは、F2キーを押して

「編集テキストの切り換え」メニュー

を表示し、その中から次に編集したいテキストを選択します。直前に編集していたテキストに戻りたい場合には HOMEキーでもカレントテキストを切り換えることができます。

同時に複数のファイルを編集している場合に、その中の１つのファイルだけを編集終了したい場合には、編集を終了したいファイルをカレントテキストにしてから、F1キーを押して

「ファイル／状態切り換え」メニュー

を呼び出し、編集結果をディスクに保存して編集を終了したい場合には、

「現テキストのセーブと編集終了」

を選択し、編集結果をディスクに保存せずに編集を終了したい場合には、

「現テキストの強制的な編集終了」

を選びます。
同時に編集中のすべてのファイルの編集を一度に終了したい場合には、

F1キーを押して

「ファイル／状態切り換え」メニュー
を呼び出し、編集結果をディスクに保存して編集を終了したい場合には、
「全テキストのセーブとエディタ終了」
を選択し、編集結果をディスクに保存せずに編集を終了したい場合には、
「強制的なエディタの終了」
を選びます。この時自動的にＭＩＮＩも終了しＤＯＳのコマンドラインに戻ります。

２．２　メニュー操作

２．２．１　メニューの選択方法

ＭＩＮＩには、
「ファイル／状態切り換え」メニュー
「編集テキストの切り換え」メニュー
「検索／置換／ジャンプ／他」メニュー
の３つのメニューがあり、それぞれF1キー、F2キー、F3キーで呼び出すことができます。これらのメニューを呼び出した後、その中の１つのメニュー項目を選択することにより、そのメニュー項目に定義された機能を実行することができます。
メニュー内の各項目は以下のいずれかの操作により選択できます。

(1) メニュー項目の左端に表示されている英字または数字のキーを押す。
(2) カーソル移動キー（▼キー、▲キー）またはスペースバーを用いてメニュー選択カーソル（白反転表示）を選択したい項目に合わせてENTERキーを押す。

メニュー表示直後にそのメニューを呼び出したキーと同じキーを押す（すなわちメニュー呼び出しキーを２回連続して押す）と、メニュー選択カーソルが自動的にそのメニューで前回選択されたメニュー項目に移動します。

また、メニュー選択中に別のメニュー呼び出しキー（F1,F2,F3キー）を押すと、選択中のメニューを中止して新しいメニューを表示します。これにより簡単にメニュー間を移動することができます。

２．２．１　ファイル／状態切り換え·メニュー

F1キーを押すと「ファイル／状態切り換え」メニューが表示されます。このメニュー中の各項目について説明します。

「現テキストのセーブと編集終了」

現在編集中のテキスト（カレントテキスト）の編集結果をセーブして編集を終了します。オープンされているテキストがカレントテキストだけの場合には、ＭＩＮＩ自身の実行も終了します。ファイルにセーブするときＭＩＮＩは次の一連の処理を行ないます。

(1) セーブするディレクトリ上にダミーのファイルを作成
(2) このダミーファイルにいったんテキストをセーブする。
(3) (2)のセーブが正常に終了した場合、ダミーファイルのファイル名を保管するファル名に変更し、処理を終了します。
(4) セーブの途中でなんらかのエラーが起こった場合には、エラーメッセージを表示して、ダミーファイルを削除します。この場合はセーブは行なわれなかったことになります。直接目的のファイルに書き出さないため、セーブが失敗した場合でも、オリジナル･ファイル（編集開始前のディスク上のファイル）や編集中のテキストには影響を与えません。

「現テキストのセーブ　編集は継続」

カレントテキストの編集を終了させることなく、カレントテキストの内容をディスクにセーブします。ただし、この機能を実行した時に実際にセーブが行なわれるのは、カレントテキストに対して何らかの変更操作が行なわれていた場合だけです。何の変更操作も行なわれてない場合には、実際のセーブは行われません。なお、オープンしてから変更操作が行われたテキストに対しては、「編集テキストの切り換え」メニュー中で左端に「変」のマークが表示されています。ファイルへのセーブ動作やセーブ時のエラー処理については、「現テキストのセーブと編集終了」と全く同じです。

「現テキストの強制的な編集終了」

カレントテキストのセーブを行なわずに編集を終了させます。この時、カレントテキストに対して何らかの変更操作が行なわれている場合には、

テキストをセーブせず終了してよいのですか？(y/n)

と終了確認のメッセージが表示されます。ここで Yキーを押すと、カレントテキストのセーブを行なわずに編集を終了します。カレントテキストに対して何の変更操作も行なわれてない場合には、このメッセージは表示せずに直ちにカレントテキストの編集を終了します。

「現テキストのパス名の変更」

カレントテキストのパス名を指定したパス名に変更します。ここでパス名を変更するとは、テキストをセーブする際のセーブ先のドライブ名やディレクトリ名やファイル名を変更することです。パス名を変更することにより、編集結果をオリジナルファイル（編集開始前のディスク上のファイル）とは異なる別のファイル（別のドライブや別のディレクトリ上のファイルでもよい）に保存することができます。これはファイルをコピーしてコピー先のファイルだけを編集することに相当します。この機能を実行すると、変更するパス名を入力するための入力枠が表示されますので、そこに変更したいパス名を入力します。この時のキー操作については、「２．４　ファイル名の入力時の操作」を参照してください。

指定したパス名のファイルが現在ＭＩＮＩでオープン中の場合はエラーとなりパス名の変更は行われません。また、指定したパス名と同名のファイルがディスク上に存在する場合には、警告のためのメッセージが表示されます。

注意!!同名のファイルがディスク上にも存在します

これはそのままセーブを行うとディスク上にある同名のファイルが失われるためです。

「全テキストのセーブとエディタ終了」

現在オープン中の全テキストをセーブしてＭＩＮＩを終了させます。この機能を実行すると、ＭＩＮＩは現在オープン中の全てのテキストを調査し、変更操作が行われているテキストについてはテキストをセーブしてから編集を終了し、変更操作が行われてないテキストについてはセーブせずにそのまま編集を終了します。そしてＭＩＮＩ自身の実行を終了します。

「強制的なエディタ終了」

テキストのセーブはいっさい行わずに強制的にＭＩＮＩの実行を終了します。これはすべての編集結果を無効にすることを意味します。この機能を実行した際、現在オープン中のテキストの中に変更操作が行われたテキストが１つ以上ある場合には、

本当にエディタを終了してもよいのですか？(y/n)

と終了確認メッセージが表示されます。ここでYキーを押すと、すべての編集結果を無効にしてＭＩＮＩの実行は終了します。この機能を実行した際、オープン中のテキストの中に変更操作が行われたテキストが１つもない場合には、この確認メッセージは表示されずに直ちにＭＩＮＩの実行は終了します。

「スプリット形状　　［上下/左右］」

ＭＩＮＩでは同時に複数のテキストを編集している場合には、画面を２分割（スプリット）して同時に２つのテキストを表示することができます（F4キー）。この時の画面の分割のし方には上下分割と左右分割の２種類があります。この機能では、画面を２つに分割する際（F4キー）の分割方法を、上下分割と左右分割で切り換えます。この機能はドグルスイッチです。なお、現在の分割方法はメニュー中で反転で表示されています。また、画面分割方法の上下分割と左右分割の切り換えは、ESC・- キー（ESCキーを押して離してから-キーを押す）で行うこともできます。

「行番号表示　　　［非表示/表示］」

行番号の表示と非表示を切り換えます。この機能はトグルスイッチです。行番号は編集テキストの左側に表示されます。表示される行番号はその位置での論理行番号を表

します。論理行番号とは、改行文字までの文字列（段落）を１行としてファイルの先頭から数えた行番号のことです。なお、カーソル位置の行番号については、画面最上行のガイドライン中の［ と ］で囲まれた中の左側の数値で常に表示されています。行番号の表示と非表示の切り換えは、ESC・/ キー（ESCキーを押して離してから /キーを押す）で行うこともできます。

「桁位置ゲージ　　［非表示/表示］」

桁位置ゲージの表示と非表示を切り換えます。この機能はトグルスイッチです。桁位置ゲージは編集テキストの上側に表示される定規のようなもので、反転マークでカーソル位置の桁位置を示しています。桁位置ゲージが示すのはカーソル位置の画面上での桁位置（1～160）です。これに対して画面最上行のガイドライン中に常に表示されている桁位置（［ と ］で囲まれた中の右側の数値）は、カーソル位置の論理行の先頭からのバイト位置（１～1000）を示しています。この２つの桁位置は、ハードタブを含む行や折れ返り表示している行などでは異なった値になります。注意してください。プログラム作成などの時には、桁位置よりもバイト位置の方が便利なことが多いでしょう。桁位置ゲージの表示と非表示の切り換えは、ESC・* キー（ESCキーを押して離してから *キーを押す）で行うこともできます。

「オートインデント［無効/有効］」

オートインデントの有効と無効を切り換えます。この機能はトグルスイッチです。現在オートインデントが有効か無効かはメニュー中で反転で表示されています。オートインデントとは、改行時に上の行と同じ桁位置に自動的に段下げ（インデント）を行なう機能です。インデントはタブコードと半角スペースを用いて行います（ただしできるだけタブコードを多く使用する）。オートインデントの有効と無効の切り換えは、ESC・= キー（ESCキーを押して離してから =キーを押す）で行うこともできます。

「ガイドライン表示［行・桁/コード］」

画面最上行のガイドライン上には、カーソル位置の行番号と桁位置か、またはカーソル位置の文字コードのいずれかの数値を、［ と ］で囲って常に表示しておくことができます。この機能ではこのガイドラインに表示する数値の種類を切り換えます。この機能はトグルスイッチです。行番号と桁位置が表示されているのか文字コードが表示されているのかは、メニュー中で反転で表示されています。ガイドライン上に行番号と桁位置が表示されている時、この行番号は論理行番号（改行文字から改行文字までを１行と数える行番号）であり、桁位置はカーソル位置の論理行の先頭からのバイト位置です（論理行の先頭位置を1バイト目としたバイト位置）。注意してください。ガイドライン上にカーソル位置の文字コードが表示されている時、この文字コードは１６進数で表示されます。カーソル位置が半角文字や制御コードなど１バイト文字の場合には、文字コードは［ と ］の中の左側に表示されます。また、カーソル位置が改行文字や全角文字など２バイト文字の場合には、１バイト目のコードが［ と ］の中の左側に、２バイト目のコードが［ と ］の中の右側に表示されます。

「検索時英大小文字［区別/同一視］」

文字列の検索時に、半角英字の大文字（A,,,Z）と小文字（a,,,z）を区別して（A と a は異なる文字と見なして）検索する状態と、同一視して（A と a は同じ文字と見なして）検索する状態とを切り換えます。この機能はトグルスイッチです。現在がどちらの状態なのかはメニュー中で反転で表示されています。例えば、同一視して検索する状態の時、検索文字列に"mini"と指定した場合に、テキスト中の"mini"だけでなく同時に"MINI"も検索します。

２．２．３　編集テキストの切り換え・メニュー

F2キーを押すと「編集テキストの切り換え」メニューが表示されます。このメニュー中の各項目について説明します。

「［変］［◎/○］編集ファイルのフルパス名」

オープン中のファイルのフルパス名が表示されているメニュー項目を選択すると、カレントテキスト（すぐに編集操作が可能なテキスト）をそのテキストに切り換えます。すなわち、カーソルをテキスト間でジャンプさせることになります。

何も表示されてないメニュー項目を選択すると、現在編集中のファイルの編集を終了することなく、新たなファイルの編集を開始します。この時編集したいファイル名を入力するための入力枠が表示されますので、そこに編集を開始したいファイル名を入力します。この時のキー操作については、「２．４　ファイル名の入力時の操作」を参照してください。

メニュー項目の左端には以下のマークが表示されることがあります。

変　　このテキストに何らかの変更操作があったことを示します。

◎　　このテキストがカレントテキストであることを示します。

○　　画面分割した際には、このマークのあるテキストとカレントテキスト（◎のあるテキスト）の２つのテキストが表示されます○マークのテキストには HOME キーでジャンプすることもできます。

「新しいファイルの編集」

現在編集中のファイルの編集を終了することなく、新たなファイルの編集を開始します。ＭＩＮＩでは同時に最大１０ファイルまで編集可能です。この機能を実行すると、編集したいファイル名を入力するための入力枠が表示されますので、そこに編集を開始したいファイル名を入力します。この時のキー操作については、「２．４　ファイル名の入力時の操作」を参照してください。

２．２．４　検索／置換／ジャンプ／他·メニュー

F3キーを押すと「検索／置換／ジャンプ／他」メニューが表示されます。このメニュー中の各項目について説明します。

「文字列の前方↓検索」

指定した文字列をカーソル位置からテキストの前方（テキストの末尾方向画面上では↓方向）に検索します。この機能を実行すると、検索したい文字列を入力するための入力枠が表示されますので、そこに検索文字列を入力します。この時のキー操作については、「２．５　検索／置換文字列の入力時の操作」を参照してください。

テキスト中で指定した検索文字列に一致する文字列を見つけると、その場所にカーソルをジャンプさせ、一致した部分を反転で明示します。最初に一致する文字列を見つけた時点で検索動作は自動的に終了します。引き続き一致する部分がないかどうかを検索したい場合には、

↓方向への再検索（F5キー）

↑方向への再検索（SHIFT+F5キー）

を実行してください。

「文字列の後方↑検索」

指定した文字列をカーソル位置からテキストの後方（テキストの先頭方向：画面上では↑方向）に検索します。この機能を実行すると、検索したい文字列を入力するための入力枠が表示されますので、そこに検索文字列を入力します。この時のキー操作については、「２．５　検索／置換文字列の入力時の操作」を参照してください。テキスト中で指定した検索文字列に一致する文字列を見つけると、その場所にカーソルをジャンプさせ、一致した部分を反転で明示します。最初に一致する文字列を見つけた時点で検索動作は自動的に終了します。

引き続き一致する部分がないかどうかを検索したい場合には、

↓方向への再検索（F5キー）

↑方向への再検索（SHIFT+F5キー）

を実行してください。

「文字列の連続置換：確認あり」

置換位置を確認しながら文字列の検索・置換を実行します。この機能を実行すると、まず置換前の文字列（旧文字列）を入力するための入力枠が表示されますから、そこに旧文字列を入力します。旧文字列にはヌル文字列を指定（何も入力せずにENTERキーを押す）しても構いません。次に置換後の文字列（新文字列）を入力するための入力枠が表示されますから、そこに新文字列を入力します。旧文字列や新文字列を入力する際のキー操作については、「２．５　検索／置換文字列の入力時の操作」を参照してください。旧文字列と新文字列の指定が終わると旧文字列の検索が開始され、旧文

字列が見つかるとその文字列を反転表示します。そして以下の置換確認メッセージを表示します。

改行キー:置換／ｽﾍﾟｰｽﾊﾞｰ:次へ／ESC:置換終了

この置換確認メッセージに対してENTERキーを押すと、その反転部分を新文字列に置き換えます。そしてさらにテキストの末尾に向かって旧文字列の検索を再開します。置換確認メッセージに対してスペースバーを押すと、その反転部分はそのままにして、テキストの末尾に向かって旧文字列の検索を再開します。置換確認メッセージに対してESCキーを押すと、文字列の置換を中止します。すなわち、この機能を中止します。文字列の検索・置換は、現在のカーソル位置からテキストの末尾に向かって行われます。従って、テキスト全体に対してある文字列を別の文字列に置き換えたい場合には、この機能を実行する前にカーソルをテキストの先頭に移動させておく必要があります。中止または終了した文字列の連続置換は、「連続置換の再実行」を実行することにより再開することができます。

「文字列の連続置換:確認なし」

置換位置の確認をせずに一度に文字列の検索・置換を実行します。この機能を実行すると、まず置換前の文字列（旧文字列）を入力するための入力枠が表示されますから、そこに旧文字列を入力します。旧文字列にはヌル文字列を指定（何も入力せずにENTERキーを押す）しても構いません。次に置換後の文字列（新文字列）を入力するための入力枠が表示されますから、そこに新文字列を入力します。旧文字列や新文字列を入力する際のキー操作については、「2．5　検索／置換文字列の入力時の操作」を参照してください。旧文字列と新文字列の指定が終わると文字列の連続置換を開始します。この時、置換処理中であることを表すメッセージが表示されます。

文字列の置換中［ESCキーで中止］

このメッセージが表示されている時にESCキーを押すと、連続置換を途中で中止させることができます。連続置換がテキストの末尾まで終了すると、置換した文字列の数が表示されます。

132 個の文字列を置換しました

文字列の検索・置換は、現在のカーソル位置からテキストの末尾に向かって行われます。従って、テキスト全体に対してある文字列を別の文字列に置き換えたい場合には、この機能を実行する前にカーソルをテキストの先頭に移動させておく必要があります。中止または終了した文字列の連続置換は、「連続置換の再実行」を実行することにより再開することができます。

「連続置換の再実行」

最後に実行した文字列の連続置換をカーソル位置からテキストの末尾に向かって再実行します。置換前の文字列（旧文字列）や置換後の文字列（新文字列）の指定は必要ありません。最後に実行した連続置換が確認ありだった場合には、確認操作を伴った検索・置換を実行し、最後に実行した連続置換が確認なしであった場合には、確認操作なしで一度に連続置換を実行します。確認操作や表示されるメッセージについては、「文字列の連続置換:確認あり」や「文字列の連続置換:確認なし」の場合と全く同じです。

「COMMAND.COM [ﾒﾓﾘ-空き= xxxK]」

子プロセスとして COMMAND.COM を実行します。すなわちＤＯＳのプロンプト状態にします。この状態から"EXIT"コマンドでＭＩＮＩの編集画面に戻ることができます。実行する COMMAND.COM を探すためにＭＩＮＩは環境変数 COMSPEC を参照するので、できるだけこの環境変数を定義しておいてください。環境変数 COMSPEC を定義するためには、起動ドライブのルートディレクトリ上の CONFIG.SYS ファイルの中で、

SHELL=C:¥COMMAND.COM　C:¥

のように記述しておくか、同じく起動ドライブのルートディレクトリ上の AUTOEXEC.BAT ファイルの中で、

SET COMSPEC=C:¥COMMAND.COM

のように記述しておきます。例えば、ＩＣカードのサブディレクトリ¥DESKに COMMAND.COMがある場合は、以下のように設定してください。

SET COMSPEC=A:¥DESK¥COMMAND.COM

「直前の削除·ペーストのＵＮＤＯ」

直前に実行した文字列の削除やペーストの結果を無効にして元のテキストの状態に戻します。処理の結果を無効にしてその処理を実行する前の状態に戻すことをＵＮＤＯと呼びます。この機能は以下のキー操作のＵＮＤＯを実行します。

DEL	カーソル位置の１文字削除
←	カーソル直前の１文字削除
CTRL+Y	カーソル行の１行削除
CTRL+K	カーソル位置から行末までの文字列の削除
CTRL+U	行頭からカーソル直前までの文字列の削除
CTRL+T	カーソル位置の１語を削除
F7	行単位または文字単位のカット
F9	行カットバッファの内容をカーソル行の上に挿入
SHIFT+F9	文字列カットバッファの内容をカーソル位置に挿入

「テキストの最初の行へ移動」

カーソルをテキストの先頭行（行番号が１の行）の左端に移動します。

「指定する行番号の行へ移動」

カーソルを指定する行番号の行に移動します。この機能を実行すると、ジャンプ先の行番号を入力するための入力枠が表示されますから、そこに行番号を入力します。行番号は論理行番号で指定します。指定する行番号へのジャンプは、ESCキーを押した後にジャンプ先の行番号を入力することでも実行できます。この方が操作は簡単です。

「システムマークに移動」

ＭＩＮＩでは検索やジャンプを実行した際に、実行前の行位置を自動的に記録しておきます。この行位置をシステムマークと呼びます。この機能ではカーソルをシステムマークにジャンプさせます。すなわち、最後に実行した検索やジャンプの実行前の位置にカーソルを戻します。これは検索やジャンプに対するＵＮＤＯ機能とも言えます。

「テキストの最後の行へ移動」

カーソルをテキストの末尾行（行番号が最大の行）の左端に移動します。

2．３　キー操作

メニュー操作以外のキー操作についてここで説明します。

なおキー操作の表記で、２つのキーを同時に押すことを２つのキーを半角のプラス記号（+）で結んで、

SHIFT+F4　　　（SHIFTキーを押しながらF4キーを押す）
CTRL+K　　　　（CTRLキーを押しながらKキーを押す）

のように表します。また２つのキーを順番に押すことを２つのキーを半角の中点記号（･）で結んで、

ESC･/　　　　（ESCキーを押して離した後に /キーを押す）
ESC･*　　　　（ESCキーを押して離した後に /キーを押す）

のように表します。

ＨＰ２００ＬＸでは、キー操作で表現されているもののうち Fn キーと併用して入力するキーがあります。

以下のキーが Fn キーとの組み合わせで使用します。

Fn + INS　　= INS
Fn + HOME　= HOME
Fn + END　　= END
Fn + PGDN　= PGDN
Fn + PGUP　= PGUP

Fn + SCRL　　= SCRL

F1

「ファイル／状態切り換え」メニューを呼び出します。

F2

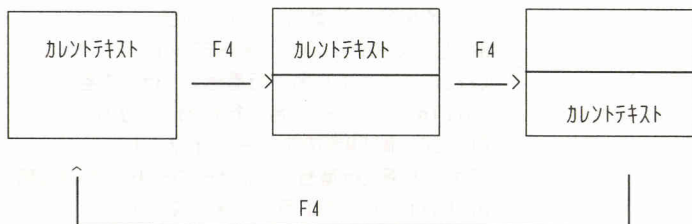
「編集テキストの切り換え」メニューを呼び出します。

F3

「検索／置換／ジャンプ／他」メニューを呼び出します。

F4

２つ以上のファイルがオープンされている場合に、画面の分割形状を環状に切り換えます。スプリット形状が上下分割の場合には以下の図のようになります。左右分割の場合も同様です。

F5

↓方向への文字列の再検索を実行します。すなわち、最後に検索した文字列と同じ文字列をカーソルの次の文字位置からテキストの末尾に向かって検索します。現在カーソルのある位置は検索対象にはなりません。

F6

行単位でテキストの範囲選択を開始します。範囲選択中に選択を中止したい場合には再度 F6キーを押します。その後、選択した範囲を行カットバッファに移動する場合には F7キーを押し、行カットバッファに複写する場合には F8キーを押します。「２．１　基本的な操作」の「文字列の削除／移動／複写」を参照のこと

F7

ガイドラインに「行範囲指定中」または「範囲指定中」と表示された状態の時にこのキーを押すと、選択された範囲（反転表示された部分）をカットバッファに移動し、テキスト中からはその範囲を削除します。「２．１　基本的な操作」の「文字列の削除／移動／複写」を参照のこと

F8

ガイドラインに「行範囲指定中」または「範囲指定中」と表示された状態の時にこのキーを押すと、選択された範囲（反転表示された部分）をカットバッファに複写しま

す。「2．1　基本的な操作」の「文字列の削除／移動／複写」を参照のこと

F9

行カットバッファの内容をカーソル行の上に挿入します。「2．1　基本的な操作」の「文字列の削除／移動／複写」を参照のこと

F10

タグジャンプを実行します。タグジャンプとは、カーソルのある行の内容で示されるファイル名の行位置へジャンプするもので、テキスト間のジャンプの1種です。ただし、タグジャンプでは現在オープンしてないファイルへのジャンプも可能です。タグジャンプを実行するためには、カーソルのある行の内容が、タグジャンプで定められた書式に従ってファイル名と行番号が記述されている必要があります。MINIのタグジャンプでは以下の書式をサポートしています。

(A) MIFIND、MITAGSおよびMILCの出力フォーマット
ファイル名　行番号:　行の内容
(B) Turbo-Cのエラーフォーマット
Error　ファイル名　行番号:　行の内容
Warning　ファイル名　行番号:　行の内容
(C) MSC、MASM等のエラーフォマット
ファイル名(行番号)　エラーコード　行の内容
(D) Lattice-Cのエラーフォーマット
ファイル名　行番号　行の内容

タグジャンプを実行した際、カーソル行の内容で指定されたファイルがまだオープンされていなければ、自動的にそのファイルをオープンしてからジャンプします。このファイルのオープン動作を伴う点が、タグジャンプの最大の特長です。

SHIFT+F4

編集画面が上下または左右に2分割されている場合に、その分割の境界線の位置を変更します。この境界線の位置は9段階あり、SHIFT+F4キーにより環状に切り換えることができます。

SHIFT+F5

↑方向への文字列の再検索を実行します。すなわち、最後に検索した文字列と同じ文字列をカーソルの直前の文字位置からテキストの先頭に向かって検索します。現在カーソルのある位置は検索対象にはなりません。

SHIFT+F6

1文字単位でテキストの範囲選択を開始します。範囲選択中に選択を中止したい場合には再度 SHIFT+F6キーかまたは F6キーを押します。その後、選択した範囲を文字列カットバッファに移動する場合には F7キーを押し、文字列カットバッファに複写する場合には F8キーを押します。「2．1　基本的な操作」の「文字列の削除／移動／

複写」を参照のこと

SHIFT+F9

文字列カットバッファの内容をカーソル位置に挿入します。「２．１　基本的な操作」の「文字列の削除／移動／複写」を参照のこと

SHIFT+F10

カーソルのある１行（論理行）を複写して２行にします。同じような内容の行が連続するような場合の入力にたいへん便利です。

ALT+F1

指定した文字列をカーソル位置からテキストの前方（テキストの末尾方向:画面上では↓方向）に検索します。この機能を実行すると、検索したい文字列を入力するための入力枠が表示されますので、そこに検索文字列を入力します。この時のキー操作については、「２．５　検索／置換文字列の入力時の操作」を参照してください。テキスト中で指定した検索文字列に一致する文字列を見つけると、その場所にカーソルをジャンプさせ、一致した部分を反転で明示します。最初に一致する文字列を見つけた時点で検索動作は自動的に終了します。引き続き一致する部分がないかどうかを検索したい場合には、

↓方向への再検索（F5キー）
↑方向への再検索（SHIFT+F5キー）

を実行してください。

ALT+F2

指定した文字列をカーソル位置からテキストの後方（テキストの先頭方向：画面上では↑方向）に検索します。この機能を実行すると、検索したい文字列を入力するための入力枠が表示されますので、そこに検索文字列を入力します。この時のキー操作については、「２．５　検索／置換文字列の入力時の操作」を参照してください。テキスト中で指定した検索文字列に一致する文字列を見つけると、その場所にカーソルをジャンプさせ、一致した部分を反転で明示します。最初に一致する文字列を見つけた時点で検索動作は自動的に終了します。引き続き一致する部分がないかどうかを検索したい場合には、

↓方向への再検索（F5キー）
↑方向への再検索（SHIFT+F5キー）

を実行してください。

ALT+F3

カーソル位置の文字が半角の英大文字（A,,,Z）の場合には英子文字（a,,,z）に変換し、逆に英小文字の場合には英大文字に変換します。そしてカーソルを次の文字（右隣の文字）位置に移動します。カーソル位置の文字が半角の英大文字でも英小文字でもない場合には、単にカーソルを次の文字位置に移動します。

ALT+F8

キーボードマクロの定義を開始します。すでにキーボードマクロの定義中だった場合にはキーボードマクロの定義を終了します。キーボードマクロとは、一連のキー操作をまとめてバッファ（キーボードマクロ·バッファ）に記録し、そのバッファに記録されたキー操作を自動的に連続して実行することにより、一連のキー操作を１つの機能であるかのように使用できるようにしたものです。ALT+F8キーを押してキーボードマクロの定義状態に入ってから、再びALT+F8キーが押されるまでの間に実行されたキー操作が、自動的にキーボードマクロ·バッファに記録されます。キーボードマクロの定義状態に入ると、画面最上行のガイドラインの右端に

キーボードマクロ定義中

と表示されます。キーボードマクロの定義中にキーボードマクロ·バッファがいっぱいになると、強制的にキーボードマクロの定義は終了されます。この時ガイドライン右端の表示が元に戻るので、それによりキーボードマクロバッファがいっぱいになったことを知ることができます。

ALT+F9

最後に定義したキーボードマクロを実行します。すなわちキーボードマクロ·バッファに記録されたキー操作を自動的に連続して実行します。キーボードマクロを実行後も、新たなキーボードマクロを定義するまではキーボードマクロ·バッファの内容は変わりませんから、ALT+F9キーを繰り返し押すことにより、同じキーボードマクロを何度も繰り返し実行することができます。この繰り返し何度も実行することこそがキーボードマクロの真髄です。

▲

カーソルを１行上へ移動します。

▼

カーソルを１行下へ移動します。

◀

カーソルを１文字左へ移動します。

▶

カーソルを１文字右へ移動します。

PgDn　（ Fn + PGDN ）

画面を半画面分ロールアップします。カーソルは半画面分だけ下の行に移動します。

PgUp　（ Fn + PGUP ）

画面を半画面分ロールダウンします。カーソルは半画面分だけ上の行に移動します。

INS　　(Fn + INS)

カーソルの状態を挿入状態と上書状態で切り換えます。文字キーを押した際、挿入状態ではカーソル位置にその文字が挿入され、上書状態ではカーソル位置の文字が入力した文字と置き代わります。

HOME　　(Fn + HOME)

最後にカレントテキストだったテキスト（「編集テキストの切り換え」メニューで○マークの付いたテキスト）にカーソルを移動します。

END　　(Fn + END)

ヘルプ·ファイル（MINI.HLP）をオープン（編集開始）します。ヘルプ·ファイルがすでにオープン済の時には、カレントテキストをヘルプ·ファイルに切り換えます。

ENTER

カーソルの状態が挿入状態の時には、カーソル位置に改行文字を挿入します。カーソルの状態が上書状態の時には、カーソル位置を改行します。すなわち、カーソルを下の行の左端に移動します。

SHIFT+ENTER

カーソル行の下に空の行を１行挿入します。この機能はカーソルが挿入状態であるか上書状態であるかには依存しません。

TAB

カーソルの状態が挿入状態の時には、カーソル位置にタブ文字（コード09H）を挿入します。カーソルの状態が上書状態の時には、カーソルを次の（右隣の）タブストップ位置に移動します。

DEL

カーソル位置の１文字を削除します。

←

カーソルの直前の１文字を削除します。

CTRL+A

カーソルを１語分後方（←方向）へ移動します。

CTRL+C

画面を半画面分ロールアップします。カーソルは半画面分だけ下の行に移動します。

CTRL+D

カーソルを１文字右へ移動します。

CTRL+E

カーソルを１行上へ移動します。

CTRL+F

カーソルを１語分前方（→方向）へ移動します。

CTRL+G

カーソル位置の１文字を削除します。

CTRL+H

カーソルの直前の１文字を削除します。

CTRL+I

カーソルの状態が挿入状態の時には、カーソル位置にタブ文字（コード09H）を挿入します。カーソルの状態が上書状態の時には、カーソルを次の（右隣の）タブストップ位置に移動します。

CTRL+K

カーソル位置から行末までの文字列を削除します。

CTRL+L

CTRL+Yキー、CTRL+Kキーまたは CTRL+Uキーで最後に削除した文字列を、カーソル位置に（CTRL+Yキーで削除した文字列の場合はカーソル行の上に）挿入します。

CTRL+M

カーソルの状態が挿入状態の時には、カーソル位置に改行文字を挿入します。カーソルの状態が上書状態の時には、カーソル位置を改行します。すなわち、カーソルを下の行の左端に移動します。

CTRL+N

カーソル行の上に空の行を１行挿入します。

CTRL+O

カーソル位置に擬似改行文字を挿入します。擬似改行文字とは、テキスト中では改行文字と全く同様に扱われるが、セーブするファイル中からは自動的に取り除かれる文字で、左向きの小さい矢印で表示されます。ＭＩＮＩでは、テキスト中での１行（１論理行）の長さは１０００バイト（半角で１０００文字）までという制限があります。そこで１０００バイトを越える長い行を編集したい場合には、テキスト中での１行が１０００バイト以下になるように、便宜的に擬似改行文字を挿入しておく必要があります。なお、編集ファイル中に１行が１０００バイトを越える行がある場合には、読み込んだテキスト中に自動的に１０００バイト付近に擬似改行文字が挿入されます。

CTRL+P

DELキー、CTRL+Gキー、⬅キー、CTRL+Hキー、CTRL+Tキーで削除した文字を、削除した時とは逆順に１文字ずつ CTRL+Pキーでカーソル位置に挿入します。

CTRL+Q

カーソル位置の文字が半角の括弧（ ({ [ ] }) ）である場合に、その括弧と対となる括弧の位置にカーソルを移動します。

CTRL+R

画面を半画面分ロールダウンします。カーソルは半画面分だけ上の行に移動します。

CTRL+S

カーソルを１文字左へ移動します。

CTRL+T

カーソル位置からの１語分の文字列を削除します。

CTRL+U

行頭からカーソル直前までの文字列を削除します。

CTRL+V

任意の文字コードをカーソル位置に挿入します。主に制御コード（00H～1FH）の入力のために使用します。このキーを押すと、画面最上行のガイドライン上にコントロールコードまたは16進2桁の入力と表示されます。ここでコントロールキー（CTRL+A,,,CTRL+Zキー）を押すと、そのキーに対応する制御コードがカーソル位置に挿入されます。また、半角で２桁の１６進数を入力すると、そのコードの文字がカーソル位置に挿入されます。
以下にいくつかの入力例を表にして示します。

CTRL+Vｷ-直後のｷ-操作	挿入されるｺ-ﾄﾞ	ﾃｷｽﾄ中での表示
00	00H	^@
01 または CTRL+A	01H	^A
02 または CTRL+B	02H	^B
19 または CTRL+Y	19H	^Y
1A または CTRL+Z	1AH	^Z
1B または ESC	1BH	^[
1C	1CH	^¥
41	41H	A
42	42H	B
7F	7FH	7F
FD	FDH	FD
FE	FEH	FE
FF	FFH	FF

CTRL+W

画面を１行分ロールダウンします。

CTRL+X

カーソルを１行下へ移動します。

CTRL+Y

カーソルのある１行を削除します。

CTRL+Z

画面を１行分ロールアップします。

ESC･-

画面分割方法の上下分割と左右分割を切り換えます。このキー操作はトグルスイッチです。

ESC･/

行番号の表示と非表示を切り換えます。このキー操作はトグルスイッチです。

ESC･*

桁位置ゲージの表示と非表示を切り換えます。このキー操作はトグルスイッチです。

ESC･+

PgDnキー、CTRL+Cキー、PgUpキー、CTRL+Rキーで実行する半画面分のロールアップまたはロールダウンの動作において、一気に半画面分先の画面を表示する動作（ジャンプ動作）と、１行づつ半画面分をスクロールさせる動作（スムース動作）を切り換えます。このキー操作はトグルスイッチです。

ESC･=

オートインデントの有効と無効を切り換えます。このキー操作はトグルスイッチです。

ESC･[

カーソル位置の文字が半角の括弧（（｛［］｝））である場合に、その括弧と対となる括弧の位置にカーソルを移動します。

ESC･]

カーソル位置の文字が半角の括弧（（｛［］｝））である場合に、その括弧と対となる括弧の位置にカーソルを移動します。

ESC･U

直前に実行した文字列の削除やペーストの結果を無効にして元のテキストの状態に戻します。処理の結果を無効にしてその処理を実行する前の状態に戻すことをＵＮＤＯと呼びます。

この機能は以下のキー操作のＵＮＤＯを実行します。

DEL	カーソル位置の１文字削除
←	カーソル直前の１文字削除
CTRL+Y	カーソル行の１行削除
CTRL+K	カーソル位置から行末までの文字列の削除
CTRL+U	行頭からカーソル直前までの文字列の削除
CTRL+T	カーソル位置の１語を削除
F7	行単位または文字単位のカット
F9	行カットバッファの内容をカーソル行の上に挿入
SHIFT+F9	文字列カットバッファの内容をカーソル位置に挿入

ESC·数字

ESCキーを押した後に行番号を入力してENTERキーを押すと、その行番号の行にカーソルをジャンプさせることができます。

ESC·ESC

全画面の再表示を行います。何らかの原因で画面表示が乱れた場合などに使用します。

２．４　ファイル名の入力時の操作

「新しいファイルの編集」や「現テキストのパス名の変更」を実行した際には、ファイル名を入力するための専用の入力枠が表示されます。またその入力枠の下にはファイル名の一覧が表示されます。この入力枠内に文字列を入力して ENTERキーを押すと、入力された文字列を分析して以下のような動作を行います。

(A) ファイル名やパス名（相対パス名、フルパス名）が入力された場合、ファイル名の入力状態を終了します。

(B) ヌル文字列が入力された場合、すなわち何も入力せずに ENTERキーを押した場合、入力枠の下にファイル名の一覧がすでに表示されている時には、ファイル名の入力状態を終了します。入力枠の下にファイル名の一覧が表示されてない時には、カレントディレクトリ上のすべてのファイル名の一覧を表示します。そしてファイル名の入力状態を継続します。

(C) ワイルドカードが入力された場合、そのワイルドカードに一致するファイル名の一覧を入力枠の下に表示します。そして入力枠内の文字列は消去し、ファイル名の入力状態を継続します。

(D) ディレクトリ名が入力された場合、そのディレクトリ上のファイル名の一覧を入力枠の下に表示します。そして入力枠内の文字列は消去し、ファイル名の入力状態を継続します。入力された文字列がファイル名であるかディレクトリ名であるかはＭＩＮＩが自動的に判断しますので、ディレクトリ名の最後に ¥ を付け

る必要はありません（付けてもよい）。

(E) ドライブ名（例.　B:）が入力された場合、そのドライブのカレントディレクトリ上のファイル名の一覧を入力枠の下に表示します。そして入力枠内の文字列は消去し、ファイル名の入力状態を継続します。入力された文字列がファイル名であるかディレクトリ名であるかはＭＩＮＩが自動的に判断しますので、ディレクトリ名の最後に ￥を付ける必要はありません（付けてもよい）。

ファイル名の入力状態では、単純に文字列を入力するだけでなく、ファイル名の一覧中からファイル名やディレクトリ名を入力枠に取り出したり、ファイル名の一覧中のファイルの内容を覗いたり、ファイル名の一覧をソートしたりできます。これらのために以下のキー操作が用意されています。

▲

ファイル名の一覧が表示されている時には、ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）を１行上に移動します。

▼

ファイル名の一覧が表示されている時には、ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）を１行下に移動します。

◀

ファイル名の一覧が表示されている時には、ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）を1ファイル左に移動します。ファイル名の一覧が表示されていない時には、文字入力カーソル（ファイル名の入力枠内のカーソル）を1文字左に移動します。

▶

ファイル名の一覧が表示されている時には、ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）を１ファイル右に移動します。ファイル名の一覧が表示されていない時には、文字入力カーソル（ファイル名の入力枠内のカーソル）を１文字右に移動します。

←

文字入力カーソルの直前の１文字を削除します。

DEL

文字入力カーソル位置の１文字を削除します。

ｽﾍﾟｰｽﾊﾞｰ

ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）がある場合には、それが示すファイルの内容を表示します。それ以外の場合には文字入カーソルの位置にスペースを１つ挿入します。ファイルの内容を表示した状態で再度スペースバーを押すと、

元のファイル名の一覧表示に戻ります。この時ファイル選択カーソルは自動的に次のファイルに移動します。

ENTER

ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）がある場合には、それが示すファイル名またはディレクトリ名を文字入力カーソルの位置に挿入します。そしてファイル選択カーソルを消去します。ファイル選択カーソルがない場合、ファイル名の一覧が表示されていない時には、カレントディレクトリ上のすべてのファイル名の一覧を表示します。それ以外の時にはファイル名の入力を終了します。

ESC

ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）がある場合にはそれを消去します。ファイル選択カーソルがない場合には、ファイル名の入力を中止します。

HOME

ファイル選択カーソル（ファイル名の一覧上の反転表示）がある場合にはそれを消去します。

F1

ファイル名の一覧を表示しているディレクトリ（ファイル名一覧を表示していない場合にはカレントディレクトリ）上のすべてのファイル名の一覧を表示します。

F2

起動オプションの１番目の -Pstr オプションで指定された文字列を文字入力カーソルの位置に挿入します。そしてファイル選択カーソルを（あれば）消去します。-Pstr オプションが指定されてない場合には、現在ファイル名一覧を表示しているディレクトリ（ファイル名一覧を表示していない場合にはカレントディレクトリ）上でワイルドカード″*.TXT″に一致するファイル名の一覧を表示します。

F3

起動オプションの２番目の -Pstr オプションで指定された文字列を文字入力カーソルの位置に挿入します。そしてファイル選択カーソルを（あれば）消去します。２番目の -Pstr オプションが指定されてない場合には、現在ファイル名一覧を表示しているディレクトリ（ファイル名一覧を表示していない場合にはカレントディレクトリ）上でワイルドカード″*.DOC″に一致するファイル名の一覧を表示します。

F6

カレントディレクトリ名を文字入力カーソル位置に挿入します。

F7

ファイル名の一覧を表示する際のソート方法を、以下の４つの方法で環状に切り換えます。

〔コード順〕ファイル名のコード順

［新しい順］タイムスタンプの新しい順
［大きい順］ファイルサイズの大きい順
［拡張子順］拡張子のコード順（同じ拡張子内ではベース名のコード順）

F8

ファイル名の一覧を表示する際のディレクトリ名の扱い方法を、以下の２つのタイプで切り換えます。

・どのようなワイルドカードが指定された場合でも、ディレクトリ名だけは常に一覧の最初に表示します。つまりディレクトリ名だけは指定されたワイルドカードに一致しなくとも表示します。しかもディレクトリ名だけはソートせずに常に一覧の最初に表示します。この方法の場合、一覧表示の下には、″DIR+″と表示されます。
・通常のファイル名とディレクトリ名を特に区別せず、ディレクトリ名もワイルドカードによる絞り込みやソートの対象とします。つまりディレクトリ名は指定されたワイルドカードと一致するものだけが表示されます。

F9

ファイル名の一覧に表示するファイルの属性を、以下の２つのタイプで切り換えます。
通常属性のファイル（システムファイル、隠しファイルは表示しない）、全ての属性のファイル（システムファイル、隠しファイルも表示する）

F10

ファイル名の一覧の表示形式を５列表示と１列表示で切り換えます。１列形式にすればファイルの詳細情報（属性、サイズ、タイムスタンプ）も表示されます。

SHIFT+F1

ファイル名の一覧を表示しているディレクトリ名を文字入力カーソル位置に挿入します。

2．5　検索／置換文字列の入力時の操作

検索や置換の機能を実行すると、検索文字列や置換文字列を入力するための専用の入力枠が表示されます。この入力枠に文字列を入力してENTERキーを押すと、検索や置換が実行されます。この検索／置換文字列の入力時には、単純に文字列を入力するだけでなく、特殊な文字や文字列を入力するための機能が用意されています。そのための以下のキー操作が使用可能です。

◀

文字入力カーソル（入力枠内のカーソル）を１文字左に移動します。

▶

文字入力カーソル（入力枠内のカーソル）を１文字右に移動します。

←

文字入力カーソルの直前の１文字を削除します。

DEL

文字入力カーソル位置の１文字を削除します。

ENTER

文字列の入力を終了します。

TAB

文字入力カーソル位置にタブ文字（コード09H）を挿入します。

CTRL+V

任意の文字コードを文字入力カーソル位置に挿入します。主に制御コード（00H〜1FH）の入力のために使用します。
このキーを押すと、画面最上行のガイドライン上に

コントロールコードまたは16進2桁の入力

と表示されます。ここでコントロールキー（CTRL+A,,,CTRL+Zキー）を押すと、そのキーに対応する制御コードが文字入力カーソル位置に挿入されます。また、半角で２桁の１６進数を入力すると、そのコードの文字が文字入力カーソル位置に挿入されます。

F1〜F10

ＭＩＮＩでは起動してから現在までに検索した文字列を最大１０個まで自動的に記憶しています。そして検索／置換文字列の入力時には、この記憶されている検索文字列が F1〜F10キーの１キーで入力できるようになっています。

SHIFT+F5

最後に実行した検索の際の検索文字列（カレント検索文字列と呼ぶ）を文字入力カーソル位置に挿入します。

SHIFT+F6

最後に実行した連続置換の際の置換後文字列（カレント置換文字列と呼ぶ）を文字入力カーソル位置に挿入します。

SHIFT+F7

擬似改行文字を文字入力カーソル位置に挿入します。

SHIFT+F9

文字列カットバッファ内の文字列を文字入力カーソル位置に挿入します。

SHIFT+F10

改行文字を文字入力カーソル位置に挿入します。

ALT+F1～ALT+F10

編集用のカーソル位置から１語分の文字列を取り出して来て、文字入力カーソル位置に挿入します。このキー操作を利用すると、カーソル位置の１語を前方↓検索したい場合には、ALT+F1キーを２回連続して押せばよいことになります。また、カーソル位置の１語を後方↑検索したい場合には、ALT+F2キーを２回連続して押せばよいことになります。

第3章　付録

3．1　制限事項

編集可能な最大のファイルサイズ

ＭＩＮＩでは編集可能なファイルの最大サイズは約２メガバイトです。より正確には、オープン中のファイルの合計サイズが最大で２メガバイトまでです（実際には２メガバイト強）。実はこの２メガバイトというのは、作業領域の大きさが最大で２メガバイトということなのです。従って -V オプションを指定してない場合には、オープンしたファイルの全てが作業領域に読み込まれる訳ではないため、２メガバイトを越えるファイルでも編集できる場合もあります。例えば、１０メガバイトのファイルの先頭から１メガバイト付近を編集しセーブすることは可能です。

１論理行の最大サイズ

ＭＩＮＩでは、テキスト中での１行（１論理行）の長さは１０００バイト（半角で１０００文字）までという制限があります。そこで１０００バイトを越える長い行を編集したい場合には、テキスト中での１行が１０００バイト以下になるように、便宜的に擬似改行文字を挿入しておく必要があります。擬似改行文字の挿入には CTRL+Oキーを使用します。なお、編集ファイル中に１行が１０００バイトを越える行がある場合には、読み込んだテキスト中に自動的に１０００バイト付近に擬似改行文字が挿入されます。

編集画面の大きさ

ＭＩＮＩの編集画面の大きさは、起動時のＤＯＳ画面のサイズによって決定します。起動時のＤＯＳ画面が小さければＭＩＮＩの画面も小さくなり、ＤＯＳ画面が大きければＭＩＮＩの画面も大きくなります。ただし対応できる画面のサイズには以下に示すような限界があります。

画面の行数：１０行～８０行
画面の桁数：８０桁～１６０桁

文字検索時のカーソルの色

ＨＰ２００ＬＸのハードウェアの制約により、ＭＩＦＥＳ-ｍｉｎｉ上で文字検索をした場合、発見した最初のカーソルが見えません．これは、ＨＰ２００ＬＸが白黒２階調表示のために起こるもので実用上ほとんど問題ないレベルですが、あらかじめご了承ください.